

中経連

5・6
2024 May・June
Vol.371

未来につなぐ
地域の文化

おまえさきとうだい
御前埼灯台



千字
万感

イビデン株式会社
代表取締役社長
青木 武志

中部
だより

「松本高山Big Bridge構想」の実現
～総合循環型観光圏の形成～
に向けて

- 2024年度事業計画
- 報告書「日本中央回廊」の効果最大化に資する道路ネットワーク整備
- 中経連会員コラム「コーヒープレイク」
トランコム株式会社 取締役 会長 武部 篤紀

CONTENTS

1 千字万感

イビデン株式会社 代表取締役社長 青木 武志

2 2024年度事業計画

3 第2回 中部圏広域産学官連携協議会

4 東海地域経済懇談会

6 報告書「日本中央回廊」の効果最大化に資する道路ネットワーク整備

10 中経連会員コラム「コーヒーブレイク」

トランコム(株) 取締役 会長 武部 篤紀

11 中部だより

「松本高山Big Bridge構想」の実現
～総合循環型観光圏の形成～に向けて

14 委員会活動

16 中経連ダイジェスト

20 Garage Nagoya Topics

24 新入会員紹介

(株)WES-VI / 草川工業(株)

26 中部圏の景況感の現状と見通し

30 最近の要望活動

表紙

未来につなぐ地域の文化

おまえさきとうだい

御前埼灯台 静岡県御前崎市

駿河湾と遠州灘を二分し、太平洋に突出した岬の先端にあるのが御前埼灯台です。御前崎は、黒潮と駿河湾の瀬が激しくぶつかり合う上に多くの暗礁が散在し、昔から海の難所として船人に恐れられてきました。このため、江戸時代には、村人が夜通しで油灯を灯す小屋があり、現在では、灯台の近くに「見尾火燈明堂」として復元されています。灯台は、明治初期に旧幕府の軍艦が沖合いで座礁したことをきっかけに、「灯台の父」と呼ばれる英国人技師、リチャード・ヘンリー・ブラントンにより、西洋式に生まれ変わりました。1874年5月1日に初点灯し、今年は150周年を迎えます。

第二次世界大戦時には、フランス製で八面構成のレンズや灯器、回転機械が破壊され、灯台も無数の銃弾を浴びる被害を受けました。戦後の復旧工事を経て、建設当時の面影を取り戻した御前埼灯台は、現在、「日本の灯台50選」や国の重要文化財(2021年指定)に選ばれています。地上高22m、約36km先まで光を届ける白亜の灯台は、日本の登れる灯台16基の一つでもあり、天気が良く空気が澄んだ日には太平洋の向こう側に姿を見せる伊豆半島や南アルプス、富士山を一望することができます。



御前崎市HP

写真提供:御前崎市、参照:御前崎市HP、公益社団法人燈光会HP



さざれ石の巖となりて

いわお

イビデン株式会社
代表取締役社長

青木武志

千

字
万
感

当社は、大正元年(1912年)11月に揖斐川水系を源とする水力発電会社「揖斐川電力株式会社」として創立しました。

地元への電力供給から始まり、その後、余剰電力を使った電気化学分野など、時代の変遷に合わせて業態を変えていきます。会社を存続していくためにコア技術を大切にした上で、時代とともに技術の変化・変革を繰り返すINNOVATIONの連続を通じて、111年の歴史を刻んできました。その源流となる岐阜県揖斐川町にある当社の水力発電所は、今もなお、現役で発電し続けています。

揖斐川町は、国歌「君が代」にも歌われている「さざれ石」(岐阜県の天然記念物)の産地として有名で、同町のホームページでも確認することができます。さざれ石は学名をせっかいしつかくれきがん石灰質角礫岩と言います。これは石灰石が長い年月の間に雨水で溶解され、その際に生じた粘着力の強い乳状液(鍾乳石と同質)が次第に小石を凝固した後に巨石となり、河川の浸食作用によって地表に露出し、こけむ苔生したものです。さざれ石は古くから神聖なものとして考えられてきた石で、日本各地の神社にてまつ祀られています。「君が代」の中でも難解とを感じる部分の一つに「さざれ石の巖となりて」という歌詞があるかと思います。さざれ石は「君が代」ではひらがな表記ですが、漢字では「細石」と書き、細かく小さな石という意味です。この表現の捉え方はさまざまですが、一般的には、国民が団結して国家がさらに発展していくようにと願いが込められているとされています。

昨今、日本経済の弱体化や競争力の低下が言われていますが、まさに今、国をあげてスタートアップやベンチャーのインキュベーターを支援し、世界を動かすようなINNOVATIONを生み出すことが望まれています。しかし、変化の激しい時代が故にINNOVATIONの活動は簡単には成果につながりません。小さな石が寄り集まって「さざれ石」のような大きな石に育つためには、この中部圏の産学官民が一体となった活動が必要とされています。

中部圏が一体となった取り組みを展開し、これから次世代に向けて登場するスタートアップやベンチャーが活発に活動できるように、私も微力ながら貢献していきたいと考えております。

2024年度事業計画

詳細は
こちら



1. 取り巻く環境の認識

世界経済は現在、ロシアのウクライナ侵攻をはじめ地政学的リスクの高まりによる世界的な資源高やインフレの趨勢、欧米の財政・金融政策の転換、経済安全保障をめぐる動向など、不確実性の高い状態が続いている。

わが国においては、人口減少・少子高齢化や東京一極集中など以前から存在する構造的課題に加え、人手不足の深刻化、資源原材料高や円安による物価上昇をはじめ多くの課題を抱えている。また、2024年1月に発生した能登半島地震からの早期の復旧・復興も不可欠である。

このような中、中部圏がさらなる飛躍を遂げるためには、直面する足元の難局を乗り越えるとともに、今が未来に向けて経済を一段高い成長軌道に乗せていく好機と捉え、社会経済の構造転換を進めていくことが重要である。

2. 2024年度の活動方針

中期活動指針『ACTION2025』の4年目として、これまで積み重ねてきた3年間の歩みを礎に、最終年度となる2025年度に確実にバトンを渡すべくアクセルをさらに力強く踏み込み、**3つの創造を柱とした活動をさらに具体化し、実行していく。**

3. 2024年度的主要活動

付加価値の創造

- 次世代モビリティやカーボンニュートラルの社会実装に向けた取り組みなど、高い付加価値を生み出す産業の活性化に資する活動。
- 知財戦略や標準化など、**カーボンニュートラル分野の社会実装に向けた課題と解決策を整理する提言書の策定**や、「次期エネルギー基本計画」に対する意見提示および要請活動の実施。
- ナゴヤ イノベーターズ ガレージのプログラムの深化・充実および中部圏の支援拠点との連携強化による**イノベーションの活性化、スタートアップの創出**。
- 2050年頃の社会像を見据えた上で、中部圏の経済を一段高い成長軌道に乗せていくための「**中部圏ビジョン(仮称)**」の策定による**中部圏の目指すべき姿の提示**。

人財の創造

- 産業構造の転換および深刻化する人手不足に向けて、**リカレント・リスキリング教育の活発化に向けた産学のマッチング**、キャリア教育共創プログラムをはじめ大学と連携したキャリア教育、地域の**デジタル化支援、外国人材の活躍・定着に向けた多文化共生の推進**。

魅力溢れる圏域の創造

- 中部圏広域産学官連携協議会での活発な議論を通じた**観光・デジタル化などの広域の共通課題の解決に向けた活動**。
- 多様な視点も取り入れながら行政をはじめとする関係機関と連携した**地域の魅力づくり**。
- リニア中央新幹線開業後の「日本中央回廊」形成による効果の最大化に向けた**道路・港湾、セントレア機能強化などの社会基盤の早期整備に向けた活動**、**安定的な物流の維持・強化に向けた活動**、**企業の防災・減災に向けた活動**。

第2回 中部圏広域産学官連携協議会

2月6日(火)、中経連は「第2回 中部圏広域産学官連携協議会」を名古屋市内(オンライン含む)で開催し、中部5県産学官のトップら22名が参加した。概要は以下のとおり。



主な参加者	中経連	水野会長、村瀬副会長、伊藤副会長、高原副会長、寺師副会長
	自治体	関長野県副知事、長尾岐阜県清流の国推進部長、出野静岡県副知事、古本愛知県副知事、廣田三重県副知事、中田名古屋市副市長
	国の機関	寺村経済産業省中部経済産業局長、佐藤国土交通省中部地方整備局長、金子国土交通省中部運輸局長
	国立大学法人	中村信州大学学長、吉田岐阜大学学長、日詰静岡大学学長、佐宗名古屋大学副総長、伊藤三重大学学長

開催主旨

わが国の社会課題の多くは広域で共通しており、産学官が連携して取り組むことで大きな成果を引き出すことが期待できる。そのため、「広域課題に対する産学官の認識共有」と「課題解決に向けた議論、解決策の推進」を目的に、2023年2月に「第1回中部圏広域産学官連携協議会」を開催した。2回目の開催となる今回は、以下の2つの議題について議論を行った。

議題1:各広域課題の活動状況等の共有(継続案件)

観光、防災、デジタル・DX、脱炭素、次世代モビリティなどの広域課題について、各担当機関が報告を行い、取り組み状況を共有した。

議題2:広域連携・産学官連携の取組事例の共有、意見交換

以下の5つのテーマについて、課題の共有と意見交換を行った。

1. 中小企業のカーボンニュートラル推進に向けた支援施策の効果向上

中小企業のカーボンニュートラルを推進するための支援として、情報共有や課題解決に向けた議論を目的に2023年度に立ち上げた「中小企業向けカーボンニュートラルに関する懇談会」について、中経連より活動状況を報告した。その後の意見交換では、「地場産業における業界同士のサプライチェーンを活用し、中小企業へ浸透させていくことが普及の近道である」などの意見が出された。

2. 地方創生に資する産学官連携による取組事例の報告

各大学から産学官連携の先進事例について報告があり、「情報交換を通じて産学官の協力関係を深め、イノベーションを図っていきたい」との声が上がった。

3. 愛知県「休み方改革」プロジェクト

愛知県より「休み方改革」に関する活動報告とともに、「休み方改革は隣接県にも広げることが重要であり、中部5県が一丸となって取り組んでいきたい」との提案があった。

4. 広域観光の課題と方向性

中部運輸局より中部圏の広域観光に関する報告があり、(一社)中央日本総合観光機構の体制強化に対する支援や、中部国際空港の利用拡大に向けた出張機会の増加などが求められた。

5. 中部圏広域地方計画の策定に向けて

中部地方整備局より中部圏広域地方計画に関する報告があり、「真の中部圏の良さを伝えるためには、当地が目指す方向性や面として示すことが重要」などの意見が出された。

総括

水野会長は、「成功事例だけでなく、失敗から得られる情報も多いため、言いづらいことも含めて情報を共有することが大事である。できるだけデータを開示し定量的な評価をすることで、中部圏の価値が上がる取り組みにつなげたい。中部圏が連携してベクトルを合わせることで強い矢ができる」と述べ、本協議会の運営に対して引き続きの協力を求めた。

[企画部 櫻井]

東海地域経済懇談会

2月8日(木)、中経連は(一社)日本経済団体連合会(経団連)、東海商工会議所連合会(東海連)と「東海地域経済懇談会」を名古屋市内で開催し、「官民連携でデフレから完全脱却し、『成長と分配の好循環』を実現する」を基本テーマに、十倉経団連会長、水野中経連会長、嶋尾東海連会長をはじめ主催団体の会員約180名が参加した。概要は以下のとおり。

<十倉経団連会長 挨拶全文>

日本経済は、継続的な賃金引上げのモメンタム(勢い)や投資・消費の拡大などに支えられ、持続的な経済成長の実現に向けた力強い一歩を踏み出している。



2024年は、この上向きのモメンタムを加速させ、官民が連携して30年来のデフレからの完全脱却を実現する歴史的な転換の年にしたい。そのために、経団連は「成長と分配の好循環の実現」に全力で取り組み、気候変動などをはじめとする社会課題の解決をエンジンとする持続的な経済成長の実現であるGX・DX、スタートアップ振興などを柱とし、イノベーション創出、生産性向上、産業競争力強化に挑戦していく。

分配の観点からは格差問題の解決に向けて、分厚い中間層を形成するために、「マクロ経済政策」「社会保障・税制」「労働政策」の3つの政策分野に、全体感を持った上で一体的に取り組むことが肝要である。とりわけ、現役世代の将来不安を払拭するために、公平・公正で安心な全世代型社会保障制度改革が急務となる。

「構造的な賃金引上げ」に向けては、現在のコストプッシュ型のインフレをデフレから完全脱却できる千載一遇のチャンスと捉え、物価上昇に負けない賃金引上げを目指す。特に、働き手の7割近くを雇用する中小企業の賃金引上げとその環境整備が重要である。価格転嫁や価格上昇に対するネガティブな意識を社会全体で変革していくため、「パートナーシップ構築宣言」への参画を、引き続き広く呼びかけるとともに、その実効性確保に一層取り組んでいく。さらに、構築宣言の趣旨を社会規範として浸透させるため、自社のみならず、関係する企業に

対して、「パートナーシップ構築宣言」への参画を呼びかけていただきたい。

世界に目を転じれば、ロシアによるウクライナ侵略や中東情勢など、世界は分断の危機に瀕しており、国際情勢は混迷の度合いが増している。特に2024年は世界的な選挙の年であり、先を見通すことが一層困難になっている。そうした中で、わが国が「自由で開かれた国際経済秩序の再構築」を訴えることは非常に重要だと考える。

2025年4月13日には、大阪・関西万博が開幕する。会場建設費への募金など多大なるご協力に改めて御礼申し上げます。万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」である。私は近頃、コロナ禍や各地の紛争、能登半島地震などに接したことを通じ、世界中の人々が生命の尊さを実感し多様性を認め合い、連携することの大切さを感じている。万博を通じて、生命の尊さと連携の大切さをわが国から発信することに、非常に大きな意義があると考える。引き続き、万博の成功に向けて、より一層のご理解とご支援をお願いしたい。

最後に、経団連は引き続き、“from the social point of view(社会性の視座)”、科学的・論理的・客観的な視点に立ちながら「サステナブルな資本主義の実践」に向けて努力していく。そして、「成長と分配の好循環」の実現を通じて、日本経済にダイナミズムを取り戻していく決意である。

中経連ならびに東海連の皆様にも、今後とも変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いしたい。



<懇談概要>

「活力ある地域づくり」「産業競争力の強化」をテーマにした懇談会では、中経連からは柘植副会長が「中部圏のインフラ整備」、神野副会長が「産学連携による人材育成」について問題提起した。

テーマ1 活力ある地域づくり

中経連・東海連からの問題提起

- **中心市街地活性化の再始動**
松石 半田商工会議所 会頭
- **人口減少への対応**
亀井 名張商工会議所 会頭
- **経済を中であわし、三方よしの恵那を築く**
阿部 恵那商工会議所 会頭
- **中部圏のインフラ整備**
柘植 中部経済連合会 副会長

柘植副会長は「中部圏を活力ある地域とするためには、リニア中央新幹線や新東名・新名神高速道路の開業などによって形成される『日本中央回廊』の効果最大化を図ることが非常に重要である」と強調した。その上で、「とりわけ、求められるのは、南北の移動時間短縮に向けてリニア中間駅と南北を結ぶ高規格道路の整備である」と訴えた。加えて、これらがもたらす波及効果として、移動時間の変化や新たなイノベーションの創出、新たなビジネススタイルやライフスタイルの可能性、巨大災害に対するリダンダンシー※の強化、新たな広域観光交流の促進などを挙げた。

※必要最低限のものに加えて、余分や重複がある状態のこと。

テーマ2 産業競争力の強化

中経連・東海連からの問題提起

- **産業競争力の維持・強化に向けた水素活用**
内藤 名古屋商工会議所 副会頭
- **産学連携による人材育成**
神野 中部経済連合会 副会長

神野副会長は、「中部圏の産業競争力を高めるためには、変化の激しい時代を乗り越え、活力ある社会を築くイノベーションを打ち出す人材の育成が必要であり、産学が一体となって検討していくこと

が重要である」と述べ、①産学連携による教育システムの見直し、②リカレント・リスキリング教育、③高度人材としての博士人材に焦点を当てた中経連の取り組みを紹介した。

中経連・東海連が問題提起した内容を受けて、経団連からは「地域経済・社会の活性化」「農業の成長産業化」「持続可能なレジリエントな観光への革新」「社会基盤の強化」「GXの推進」「産学連携による人材育成」「スタートアップ振興」などに関する説明がなされ、その後、意見交換が行われた。

最後に、中経連の水野会長が閉会挨拶を述べ、懇談会を締めくくった。



懇談会後に開催した共同記者会見の様子。
右から水野中経連会長、十倉経団連会長、嶋尾東海連会長。

翌2月9日(金)には、経団連会長・審議委員会議長・副会長に対して、カーボンニュートラル社会の実現に向けた最新技術の視察会を実施。国内最大級の石炭火力発電所である(株)JERA・碧南火力発電所内を見学するとともに、同社が挑戦する燃焼時にCO₂を出さないアンモニアを活用したゼロエミッション火力発電の取り組みについて、活発な意見交換が行われた。



碧南火力発電所のアンモニア貯蔵タンクを視察する様子。

[総務・会員サービス部 柳田]

「日本中央回廊」の効果最大化に資する 道路ネットワーク整備

中経連は、社会基盤委員会（委員長：柘植副会長）において、報告書「『日本中央回廊』の効果最大化に資する道路ネットワーク整備」を取りまとめた。今後、中経連会員をはじめ、国や自治体、関係団体などに幅広く配布し、認識の共有化や議論の深化に役立てるとともに、交通インフラ整備に向けた要望などの諸活動に活用していく。報告書の概要は以下のとおり。

1 中部圏における 道路ネットワーク整備の状況

中部圏の製造品出荷額は首都圏や関西圏より大きい。また、名古屋港の貿易黒字額は25年連続日本一であり、中部圏のものづくり産業は日本経済を牽引しているが、中部圏の道路ネットワーク整備は途上である。

具体的には、首都圏や関西圏と比較し、中部圏は人口あたり渋滞損失時間が多く発生している。また、製造品出荷額ランキング上位50市町村において、高規格幹線道路のインターチェンジが無い8市町村のうち、5市町村が中部圏にある。さらに、全国56の高規格幹線道路で、整備率が50%を下回るのは6路線であり、そのうちの3路線は中部圏にある。

2 新たな国土形成計画

2023年7月に閣議決定された新たな国土形成計画では、国土全体にわたる広域レベルにおける地域整備を進める方向性の一つとして、「三大都市圏を結ぶ『日本中央回廊*』の形成を通じて地方活性化、国際競争力強化を図る」ことが示された。また、2024年度以降に策定予定である新たな国土形成計画（中部圏広域地方計画）の基本的な考え方では、中部圏は「『日本中央回廊』の効果の最大化」が重要とされている。

*リニア中央新幹線、新東名高速道路、新名神高速道路に加え、リニア中央新幹線各駅と結節する高規格道路ネットワークなどにより首都圏・中部圏・関西圏を短時間で結ぶ、世界に例を見ない「経済集積地域」。

3 求められる道路ネットワーク整備

「日本中央回廊」の効果を最大限に発揮するための道路ネットワーク整備として、以下が求められる。

I リニア中間駅に直結する道路

- リニア中間駅からの南北軸となる高規格道路の整備
- リニア中間駅から高規格道路までのアクセス道路の整備

II リニア中間駅に直結しないが、「日本中央回廊」 として重要な道路

I リニア中間駅に直結する道路

「日本中央回廊」は、リニア中央新幹線および新東名高速道路、新名神高速道路の開業などにより、東西軸の時間距離が大幅に短縮される。それに加えて、「リニア中間駅からの南北軸となる高規格道路の整備」および「リニア中間駅から高規格道路までのアクセス道路の整備」により、南北軸の時間距離が短縮でき、「日本中央回廊」の波及効果を縦・横と広範囲に広げることができる。リニア中間駅に直結する主な道路とその必要性（効果）は以下のとおり（P7図1参照）。

①名古屋駅・西知多道路

- 中部国際空港から新東名高速道路（伊勢湾岸自動車道）および名古屋駅へのアクセスの速達化。
- 知多半島道路と一体となってダブルネットワークの形成ならびに道路沿線から名古屋港への物流の効率化。

②リニア岐阜県駅・濃飛横断自動車道

- リニア岐阜県駅から、下呂、郡上、高山、中部縦貫自動車道で福井、さらには金沢・富山への観光ルートの設定が可能。
- 高規格道路の空白域である下呂地域周辺は、東海北陸自動車道や中央自動車道との接続により利便性が向上し、国道41号が災害時の代替

経路とすることが可能。

③リニア長野県駅:三遠南信自動車道

- 長野県の航空宇宙産業や輸送機器、農産物の消費地拡大。
- 三河港からの海外輸出が可能。
- 三河港を起点に、奥三河や南信州、中央アルプスなど、太平洋側と山岳地域をセットとした観光ルートの設定やリニア長野県駅を利用した周遊ルートの設定が可能。
- 万が一南海トラフ地震が発生した際、内陸への避難や緊急物資輸送ルートとしての活用が可能。

④リニア山梨県駅:中部横断自動車道

- 長野県の製造業輸出額は全国9位の規模が

あり、現在、佐久市、小諸市などの東北信地域は横浜港を利用しているが、清水港利用に変わることによる時間短縮が可能。清水港におけるコンテナ輸出量の増加による活性化。

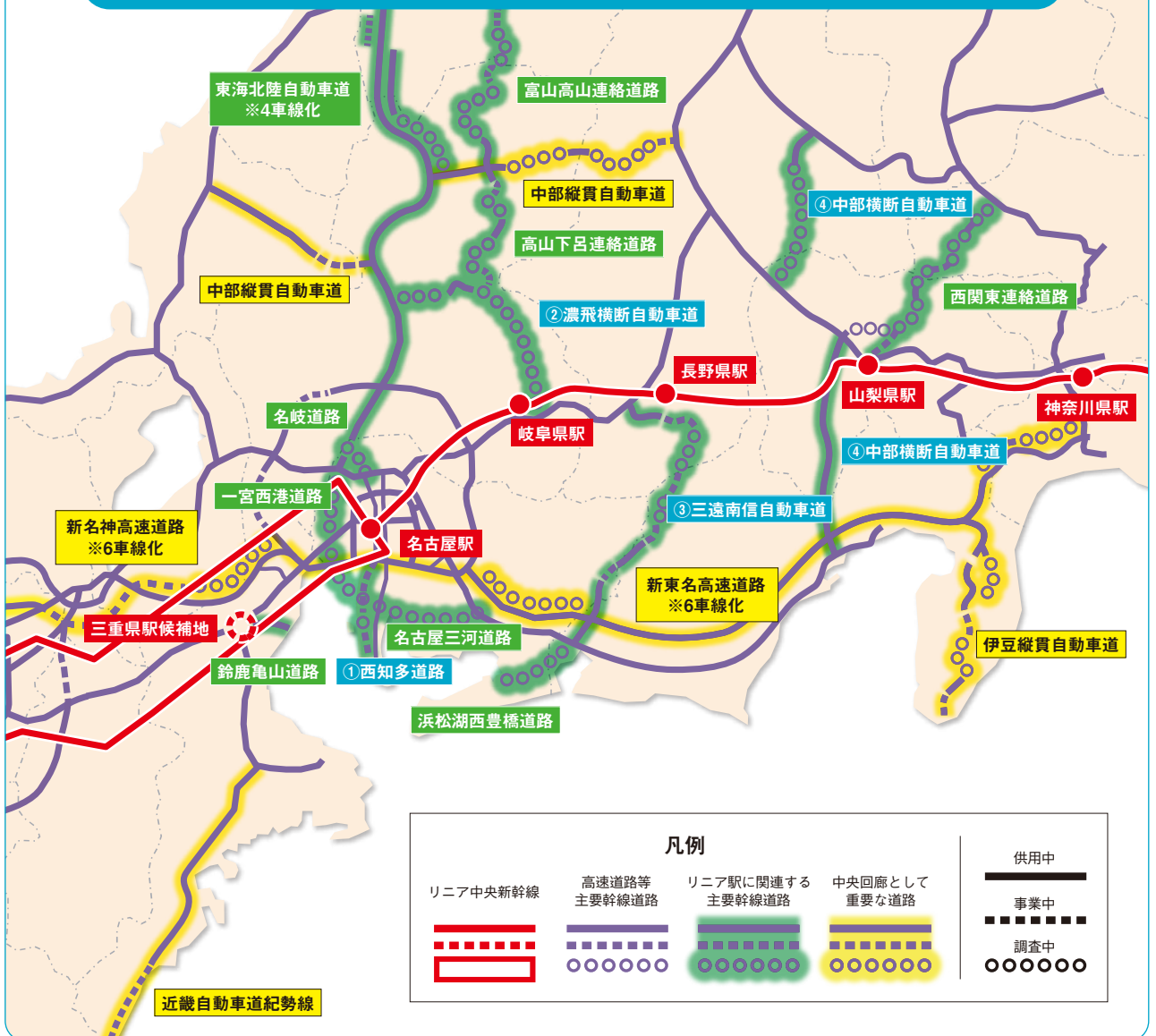
- 横浜港の混雑緩和。

Ⅱ リニア中間駅に直結しないが、「日本中央回廊」として重要な道路

「日本中央回廊」の効果の最大化には、リニア中間駅に直結しないが「日本中央回廊」として重要な道路の整備も不可欠である。「日本中央回廊」には、高規格幹線道路における未整備区間の解消が求められる。

【図1】

「日本中央回廊」の効果最大化に向けて、求められる道路ネットワーク



4 「日本中央回廊」における直接的効果
(移動時間の変化)

リニア中央新幹線の開業に加えて、道路ネットワークが整備されることで、「日本中央回廊」における移動時間がさらに短縮される。

例えば、名古屋駅から長野県軽井沢町までの所要時間は、現状195～250分程度であるが、リニア中央新幹線を開業した上で、南北軸となる高規格道路などが整備された場合、所要時間は135分程度に短縮される。また、品川駅から岐阜県高山市までの所要時間は、現状295～330分程度であるが、リニア中央新幹線が開業した上、南北軸となる高規格道路などが整備された場合、所要時間は130分程度となる(下表参照)。

5 「日本中央回廊」における広域的な波及効果

「日本中央回廊」が形成されることによる、圏域を超える広域的な波及効果は主に以下のとおり。

(1) 新たなイノベーションの創出 (P9図2参照)

各地域の強みを生かした産業の育成とともに、圏域を超えて産業クラスター同士が連携することによって、

イノベーションが創出され、新たな産業が生まれる。

(2) 新たなビジネススタイルやライフスタイルが可能に (P9図3参照)

リニア中間駅付近の自然豊かな地域で家族とともに居住し、必要な場合は、リニア中央新幹線で大都市の本社などに出勤するといったワークライフバランスの実現が可能となる。これにより、大都市から地方への移住、大都市への通勤通学、二地域居住など、都市と地方にまたがる新たなビジネススタイルやライフスタイルが生まれる。

(3) 巨大災害に対するリダンダンシーの確保

東西方向の高速交通ネットワークの多重性および代替性の強化は、首都直下地震や南海トラフ地震などの巨大災害に対するリダンダンシーの確保に寄与する。加えて、南北方向に伸びる高速道路ネットワークが広域圏を形成することにより、南北方向の人流や物流のリダンダンシーも強化される。また、首都圏・中部圏・関西圏の空港が相互補完的に機能する。

(4) 新たな広域観光交流の促進

リニア中央新幹線や東海道新幹線、高速道路などの道路ネットワークを活かした広域連携により、多様

移動時間の変化

(単位:分)

発地	着地	現状		将来		参考 (リニア開業後の乗換駅)
		自動車のみ	鉄道のみ	リニア開業後 (リニア利用)	リニア開業後(リニア利用) +南北軸道路など	
名古屋駅	岐阜県高山市	122	145	151	87	岐阜県駅
名古屋駅	岐阜県下呂市	130	99	82	74	岐阜県駅
名古屋駅	長野県松本市	184	127	115	110	長野県駅
名古屋駅	遠山郷 (長野県飯田市) ※旧 南信濃村	164	219	115	71	長野県駅
名古屋駅	長野県軽井沢町	250	193	177	136	山梨県駅
名古屋駅	長野県上田市	227	207	186	142	山梨県駅
名古屋駅	埼玉県秩父市	341	273	185	110	山梨県駅

(単位:分)

発地	着地	現状		将来		参考 (リニア開業後の乗換駅)
		自動車のみ	鉄道のみ	リニア開業後 (リニア利用)	リニア開業後(リニア利用) +南北軸道路など	
品川駅	岐阜県高山市	328	296	193	129	岐阜県駅
品川駅	岐阜県下呂市	321	223	124	115	岐阜県駅
品川駅	長野県松本市	185	207	132	127	長野県駅
品川駅	遠山郷 (長野県飯田市) ※旧 南信濃村	250	267	131	88	長野県駅
品川駅	長野県南牧村 (八ヶ岳登山)	160	231	110	98	山梨県駅

(出典)三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる試算をもとに、中経連が作成

な広域観光交流圏を形成することを可能にし、国内外のさまざまな観光需要を取り込むことができる。

**(5)リニア中央新幹線の効果は「日本中央回廊」
周辺地域にも波及**

リニア中央新幹線の開業に伴い、リニア中間駅

周辺では、東京・名古屋・大阪までの移動時間が大幅に短縮する。さらに、リニア中央新幹線の沿線都市のみならず、その周辺地域との移動時間も大幅に短縮される。

【図2】



【図3】



お問い合わせ先：産業基盤強化推進部

内容の詳細については、中経連ホームページをご覧ください



「コーヒブレイク」は、会員の皆様の趣味や日課などの「オフ」を中心に、寄稿者様と読者の皆様がコーヒーを飲みながら雑談しているような、「ホッ」と一息つけるコラムを目指しています。

☕☕☕
Coffee break

コーヒブレイク

中経連会員コラム

2



武部 篤紀
Takebe Atsunori
トランコム株式会社
取締役 会長

昨年からは毎朝のジョギングを始めました。実は昨夏にニュージーランドを訪れ、ちょっとした山の登頂を目指しました。自分自身は「体力がない方ではない」と思っていました。が、残念ながら標高1800mの三分の二ほどでリタイア。一方で、多くの若者がさっさと笑顔で登頂しているのを見て、自分自身、足腰と精神面を鍛え直したいと考えたのが、ジョギングを始めたきっかけです。

当初は、全く走ることができず、「こんなにも走れないんだ」と愕然とする毎日。ゴルフのプレー中はクラブを持って走っているのですが（笑）、それが走っている内に入らないことを認識した瞬間でもありました。

ひと月ほどすると、ずいぶん距離も時間も長く走れるようになり、今ではハーフも完走できるようになりました。

今後「継続こそが力」と信じ、雨の日も頑張っています。

次号は井村屋グループ株式会社の代表取締役 会長 (CEO) 中島伸子様 の予定です。

新しい仲間のご紹介を!!

中経連では、会員の皆様との活発な意見交換のもとに、デジタル化・DXの推進、2050年カーボンニュートラルの実現、イノベーションの活発化など、中部圏ひいてはわが国の発展に向けたさまざまな活動に取り組んでおります。

これまで以上に地域の期待に応え、より大きな成果をあげていくためにも、ともに活動いただける仲間をさらに増やしていきたいと思っております。会員の皆様におかれましては、是非とも新しい仲間をご紹介いただければ幸いです。何卒ご協力をお願い申し上げます。

中部の未来を
ともに考え
行動してみませんか
会員増強にご協力ください

【お問い合わせ先】総務・会員サービス部 伊藤 TEL052(962)8091

中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

「松本高山Big Bridge構想」の実現～総合循環型観光圏の形成～に向けて

はじめに

岐阜県と長野県にまたがる中部山岳国立公園南部地域には、槍ヶ岳や乗鞍岳などの雄大で美しい山々が連なる北アルプスが広がっている。この北アルプスを挟み、松本市と高山市を東西につなぐ行政区分にとらわれない横断的な地域を一つの観光圏として捉え、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地経営の実現を目指す取り組みが、「松本高山Big Bridge構想」である。

1. 国の政策との関係性

政府は2016年3月、「観光は、真にわが国の成長戦略と地方創生の大きな柱である」との認識の下、「明日の日本を支える観光ビジョン」を公表し、2030年の訪日外国人旅行者数を2015年の約3倍にあたる6,000万人とする目標を掲げた。

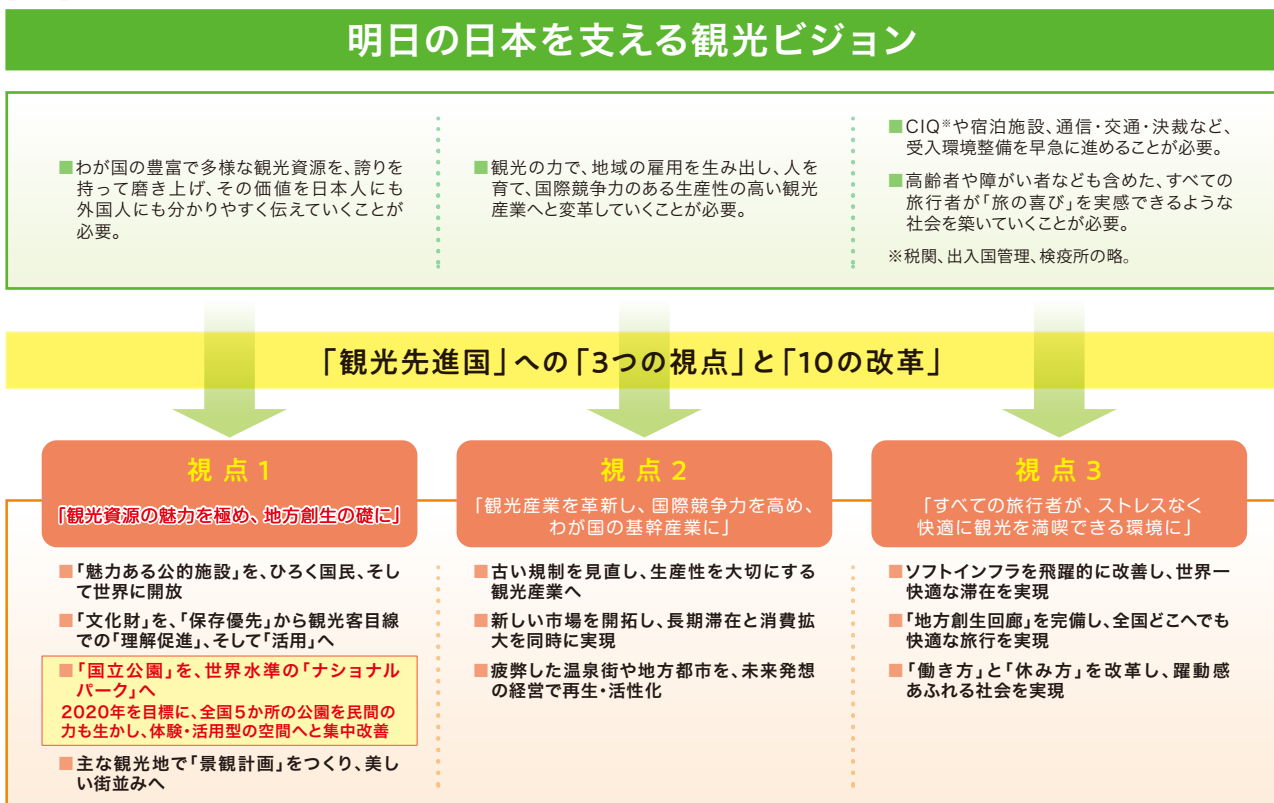
同ビジョンでは、わが国を「観光先進国」へと

進化させるために、「3つの視点」を柱とした「10の改革」が取りまとめられた。そのうちのひとつに、「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」という視点に基づく改革である「国立公園の『ナショナルパーク』としてのブランド化」が盛り込まれる(図1参照)とともに、公園の上質化に向け先行的・集中的に改善を図るべき国立公園が選定された。

2018年に中部山岳国立公園がその対象に選定されたことを受け、2021年3月には、2025年度までの取り組み指針である「中部山岳国立公園南部地域利用推進プログラム2025」が策定された(P13図2参照)。

同プログラムでは、「松本高山Big Bridge構想」の実現がビジョンの柱に据えられた上で、利用の質や利用者数に関する具体的な数値目標のほか、同地域の各エリア・拠点が推進すべき「重点取組」が示されるなど、ビジョン実現に向けた「松本高山

【図1】「明日の日本を支える観光ビジョン」(国土交通省観光庁／2016年3月公表)より抜粋し、中経連が作成。



Big Bridge構想実現プロジェクト」がスタートした。

2. 「松本高山 Big Bridge構想実現プロジェクト」

本プロジェクトは、地元の観光協会や自治体などで構成するチームが主体となり、誘客に向けた旅のストーリーやプロモーション計画の作成をはじめ、観光ルート名の設定や動線上のソフト・ハード両面でのインフラ整備などが進められている。

同チームは2023年2月に、松本～高山の横断的地域（観光圏）を「Kita Alps（北アルプス）」と「Traverse（トラバース／フランス語で「山岳を横断する）」」からなる造語で、「Kita Alps Traverse Route」と名付けた。この名称には、「北アルプス」というブランドを世界中に広めるとともに、3,000m級の山岳とその左右に位置する2つの観光都市を訪問できる特別感や特異性を感じてほしい、という思いが込められている。

3. プロジェクトの達成に向けた具体的な取り組み

Kita Alps Traverse Routeの中核エリアである上高地・沢渡・平湯（図3の①参照）では、同地の魅

力と価値を磨き上げ、世界有数の山岳観光地に肩を並べる世界観の創出に向けた取り組みが検討されている。

乗鞍岳周辺（同②参照）では、岐阜県と長野県の県境をまたがる乗鞍エコーライン（長野県側）からスカイライン（岐阜県側）を一連のルートとして一気通貫で利用してもらうために、プロモーション用コンテンツの充実に取り組んでいる。

このほか、2024年開通を目指す「信飛トレイル」（同③参照）は、松本と高山を結ぶ全長約115kmの街道を約7日間かけて歩いて横断するトレイルであり、街道周辺エリアの開発と合わせ、着々と準備が進んでいる。

4. プロジェクトの実現に向けて

中経連としては、国内外から中部圏へ人を呼び込み、地域活性化や広域観光の促進につなげるための情報発信などを通じ本プロジェクトの実現を後押しすることで、政府が目指す「世界が訪れたいくなる日本」に向けた国づくりへの挑戦に貢献していく。

文：岐阜県担当 小淵

取材協力：環境省 中部山岳国立公園管理事務所

写真提供：松本城管理課（★印）

【図3】



① 「上高地・沢渡・平湯」トライアングルエリアの検討

国立公園らしい世界観や特別感の創出に向けて、機能やサービスを提供する。公園区域内の各情報提供施設や交通手段なども国立公園を体験するためのコンテンツと位置づけ、その魅力と価値の磨き上げを行う。

② 乗鞍岳統一プロモーションの推進

乗鞍岳を中心に、エコーライン（長野側）とスカイライン（岐阜側）なプロモーションや情報発信を行う。さらに、自転車、ト

中部山岳国立公園南部地域利用推進プログラム2025

<p>取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SDGsの推進 ●COVID-19への対応 ●新しい需要への対応 ●インバウンドへの対応 <p>持続可能な地域づくりへの貢献 日本の国立公園の多様性の発信</p>	<p>ビジョン</p> <h2>「松本高山Big Bridge構想」 の実現</h2> <p>地域の自然・文化・歴史を体感できるルートとしてブランディング。 基盤整備などにより長期滞在も実現。 起終点から伸びる多彩なルートを設定。</p>	<p>数値目標</p> <p><利用の質></p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本人の消費額/人 28%増 ●外国人の消費額/人 38%増 ●宿泊日数 4.5泊(1泊増) ●国立公園認知度 80% <p><利用者の数></p> <ul style="list-style-type: none"> ●総利用者数 10%増 ●訪日外国人利用者数 46万人*の早期回復 <small>※2019年時点/独自推計の実績値</small> ●閑散期における利用の底上げによる需要の平準化
--	--	---

「重点取り組み」の抜粋

<p>新しい需要</p> <p>乗鞍高原、平湯、白骨の ワーケーションビレッジ化</p>	<p>ポータルサイト</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作成済「南部地域」ポータルサイトの協働型運営体制を確立 ●リアルタイムの情報発信 	<p>世界水準の観光地の実現</p> <p>公園の核心部となる上高地と沢渡・平湯の連携強化により、サービス・ホスピタリティなどを上質化</p>	<p>移動の充実</p> <p>移動自体を魅力的な体験コンテンツにすることによる満足度向上</p>
<p>保護と利用</p> <p>ツアー参加費、宿泊費の一部を保護活動に回すなどの取組を増加</p>	<p>ハードAT</p> <ul style="list-style-type: none"> ●山小屋文化と3,000m級のハードアドベンチャーによる日本ならではの登山文化を体感できるAT*ツアーを実施 <small>※アドベンチャーツーリズムの略。アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行のこと。</small> 	<p>サステナブルツーリズム</p> <p>GSTC*が求める脱炭素、脱プラなどの要件も踏まえ、現状把握の上、目指す方向性を整理し、各種取組を実施 <small>※グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会の略。</small></p>	<p>世界観の創出</p> <p>気分を盛り上げる演出(景観、制服、レクチャーなど)を複数場面で実施</p>



(岐阜側)を一連のルートとして一気通貫する利用の推進に向けて、一元的レッキング、バス交通などの利用を想定したコンテンツを充実させる。

③ 信飛トレイル
松本(アルプス公園)-高山(櫻山八幡宮)を結ぶ全長約115kmを歩くトレイル。豊かな自然と歴史に彩られた古道や街道でつなぐ。2024年にオープン予定。
※現在通行止め区間あり。

委員会とは

中経連では、12の委員会を設置し、国内外の経済社会などに関する諸問題について調査研究・提言を行うなど、さまざまな活動に取り組むとともに、活動を通して会員相互の交流を図っています。会員登録者であれば、委員会に参加することができます。

第2回社会基盤委員会

開催日 2月20日(火) 参加者 委員長の柘植副会長をはじめ58名

柘植委員長の挨拶に続き、事務局から、「2023年度活動実績および2024年度活動計画案」および報告書「『日本中央回廊※1』の効果最大化に資する道路ネットワーク整備※2(案)」について説明し、意見交換を行った。報告書は、3月度の正・副会長会および総合政策会議へ付議した後に公表することとした。

※1 リニア中央新幹線、新東名高速道路、新名神高速道路に加え、リニア中央新幹線各駅と結節する高規格道路ネットワークなどにより首都圏・中部圏・関西圏を短時間で結ぶ、世界に例を見ない「経済集積地域」。

※2 本誌6～9ページ参照



[産業基盤強化推進部 高橋]

第2回経済委員会

開催日 2月29日(木) 参加者 委員長の高原副会長をはじめ40名



高原委員長の挨拶に続き、事務局より2023年度に検討を開始した「中部圏ビジョン(仮称)(以下、ビジョン)(案)」の現状報告を行い、審議ならびに意見交換を行った。今後は、ビジョンの内容を充実させていくとともに、ビジョンの実現に向けて中経連の果たすべき役割や具体的な行動についても検討していく。

[調査部 渡邊]

第3回エネルギー・環境委員会

開催日 3月4日(月) 参加者 委員長の勝野副会長をはじめ43名

第一部の講演会では、多摩大学ルール形成戦略研究所客員教授、(一社)企業間情報連携推進コンソーシアム理事長の市川芳明氏を講師に迎え、「カーボンニュートラル(以下、CN)技術に求められるルール形成と国際標準化」をテーマに講演いただいた。第二部の委員会では、勝野副会長の挨拶に続いて、「次期エネルギー基本計画策定に



市川芳明氏



対する提言書(案)」「CNの実現に向けた社会実装の推進に対する提言書(案)」「中部圏ビジョン(仮称)(案)」を議題に審議したほか、「中学・高校生を対象とした環境教育」の実施結果を報告した。

[社会実装推進部 後藤]

第2回地域活性化委員会(三重・地域産品の魅力発信イベント)

開催日 3月7日(木)

参加者 共同委員長の伊藤副会長をはじめ76名



中経連は、三重県産品の魅力を海外に発信するイベント「Experience Mie～“Mie Sushi”とそれを彩るものづくり～」を(株)百五銀行と共催し、12か国・1地域の在日外公館や海外政府機関などの在日外国人が参加した。出展事業者と参加者による交流は、三重県産品のさらなる高付加価値化に資する気づきや新たなアイデアの獲得につながった。

[企画部 小淵]

第2回物流委員会

開催日 3月13日(水)

参加者 委員長の安藤(仁)副会長をはじめ23名

安藤委員長の挨拶に続き、事務局より2023年12月に公表した提言書「持続可能な物流の構築に向けて」に基づく要請活動の実績を報告したほか、物流業界における最新の動向や「2024年問題」の解決に資する好事例を紹介した。また、本委員会の2024年度開催計画を説明した後、意見交換を行った。

[産業基盤強化推進部 小笠原]



第2回企業防災委員会

開催日 3月14日(木)

参加者 委員長の大西副会長、共同委員長の平光理事をはじめ41名
(講演は委員を含む会員43企業・団体が聴講)



福和伸夫氏

委員会に先立ち、名古屋大学名誉教授であり、あいち・なごや強靱化共創センター長の福和伸夫氏を講師に迎え、「能登半島地震や過去の地震に学び南海トラフ地震に備える」と題した講演会を開催した。

委員会では、大西委員長の挨拶に続き、事務局から2023年度活動実績を報告した上で、2024年度活動計画(案)の審議を行った。

[産業基盤強化推進部 竹前]

中経連ホームページでは掲載の記事について、詳しく紹介しています。

<https://www.chukeiren.or.jp/committee/>



ダイジェストとは

中経連の中期活動指針「ACTION2025」で3本柱として掲げる「付加価値の創造」「人材の創造」「魅力溢れる圏域の創造」に基づいた、さまざまな活動や行事などを紹介します。

1月
30日
(火)

経済4団体新春経済講演会



岩出雅之氏

中経連は、中部経済同友会、名古屋商工会議所、愛知県経営者協会とともに、帝京大学スポーツ局長、スポーツ医科学センター教授、ラグビー部前監督の岩出雅之氏を迎え、「常勝団体のプリンシプル～自ら学び成長する人材が育つ心のマネジメント～」と題した新春経済講演会を名古屋市内で開催した。水野会長をはじめ参加者約300名は、同氏の大学ラグビー選手権9連覇に導いた経験談を傾聴した。

[総務・会員サービス部 山田]

中経連デジタル人材育成支援事業 「デジタル人材育成セミナー2024」

中経連は、中経連デジタル人材育成支援事業「デジタル人材育成セミナー2024」を開催し、企業の管理職や人材育成の担当者を中心に約140名が参加した。

[企画部 木下]



2月
1日
(木)

2月
1日・2日
(木) (金)



第5回シンクタンク交流会

中経連は、中部圏の地方銀行系シンクタンク4団体※および(公財)中部圏社会経済研究所との第5回交流会を名古屋市内で開催し、15名が参加した。

※構成:(一財)静岡経済研究所、(一財)長野経済研究所、(株)十六総合研究所、(株)百五総合研究所

[調査部 北岡]

中学生を対象としたカーボンニュートラル教育

中経連は、エネルギー・環境委員会による活動の一環として、東邦ガス(株)から講師を迎え、カーボンニュートラル(以下、CN)を題材とした出前教育を名古屋大学教育学部附属中学校で開催した。本取り組みは、2050年のCN社会において最前線で活躍が期待される現在の10代を対象に、CN社会実現に向けた意識変革・変容を促すことを目的に実施し、同校の二年生約80名と教師が参加した。

[社会実装推進部 後藤]



2月
13日
(火)

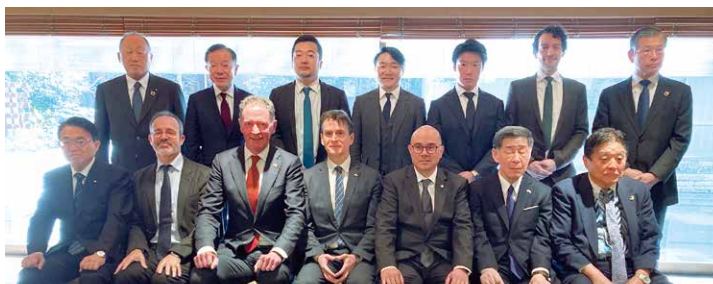
2月
13日
(火)

愛知・名古屋国際ネットワーク

中経連は、愛知県、名古屋市、名古屋港管理組合、名古屋商工会議所とともに、愛知・名古屋国際ネットワーク(ANNIE※)を開催した。本イベントは、愛知・名古屋における国際化の進展を図ることを目的に、2011年度から駐日外交官を招いて当地域とのネットワークづくりに資するプログラムを実施している。今回は、インドネシア、オーストラリア、オランダ、スペインから在日公館代表者をお招きし、「スタートアップ」をテーマに、起業家やベンチャー企業の育成拠点である「なごのキャンパス」で、中部圏に拠点を置くスタートアップ4社との懇談会を実施した。

※Aichi-Nagoya Network & International Exchangeの略。

[国際部 岡戸]



2月
14日
(水)

フランス共和国ランス市長との懇談

フランス共和国ランス市長のアルノー・ロビネ氏をはじめとする同市の行政・企業の関係者10名が中経連を訪れ、水野会長以下幹部と懇談した。

[国際部 岡戸]



2月
19日
(月)

第7回「中部の魅力を語る なでしこの会」

中経連は、第7回「中部の魅力を語る なでしこの会」を開催し、なでしこの会メンバーおよび水野会長、事務局役員など21名が参加した。前回の会合から「働きやすさ」について議論しており、千差万別な働きやすさがある中でも、働く環境や制度・マインド面で多くの共通点があることが見えてきた。今回は、それらのマイナス要因と強化・促進すべきポイントについて、女性や若者の“失敗”に対する捉え方やコミュニケーションの重要性などについて活発な議論が行われた。

[企画部 櫻井]



2月
22日
(木)

経済4団体主催「日銀講演会」

中経連は、中部経済同友会、名古屋商工会議所、愛知県経営者協会とともに、日本銀行名古屋支店長の廣島鉄也氏を迎え、「最近の金融経済情勢と今後の展望」と題した日銀講演会を名古屋市内で開催し、水野会長をはじめ4団体の会員約240名が参加した。

[総務・会員サービス部 山田]



廣島鉄也氏

2月
29日・ 3月
1日
(木) (金)

TOCKIN' NAGOYA2024

Aichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortium(中経連、愛知県、名古屋市、名古屋大学)は、東海地区最大規模のスタートアップの祭典「TOCKIN' NAGOYA2024」を開催し、795名が来場した。本イベントは、中部圏のスタートアップに対する注目度を高めるとともに、起業家や新規事業開発関係者、支援者など参加者間の交流を深めることを目的に毎年開催しており、今回で3回目を迎えた。

[イノベーション推進部 川崎]



2月
29日
(木)

第4回MAP-NAGOYA

中経連と中部経済産業局は、「『Meet up Chubu^{※1}』vol.34 モビリティ with Map-NAGOYA^{※2} in TOCKIN' NAGOYA2024」を開催し、オンラインを含め約310名が参加した。冒頭、事務局より、Map-NAGOYAの主旨・



目的などを説明した後、4名のゲストを迎え、次世代モビリティ産業に資する研究や事業などを紹介いただいた。

- ※1 共同研究や新事業展開に向けた連携パートナーを探るためのオープンイノベーションプラットフォーム。
- ※2 モビリティアクセスポイントナゴヤの略。モビリティ関係の新技术や研究テーマを広く発信し産学官交流やマッチングの加速を目的に2022年に立ち上げたプロジェクト。

[社会実装推進部 佐々木]

2月
29日
(木)

持続可能な観光地域づくりシンポジウム



経済産業省中部経済産業局と国土交通省中部運輸局によるシンポジウムが、「2025年大阪・関西万博に向けた中部地域のインバウンド誘致」をテーマに開催された。本シンポジウムは、中部圏への効果的な誘客により「稼ぐ力」を高め、当地の持続可能な観光地域づくりの促進を目指すものであり、中経連からは(一社)中央日本総合観光機構の代表を兼任する水野会長が出席した。

[企画部 小淵]

3月
6日
(水)

イタリア共和国 キエーティ・ペスカーラ商工会議所との懇談

中経連は、イタリア共和国アブルッツォ州[※]のキエーティ・ペスカーラ商工会議所のジェンナーロ・ストレーベル会頭を代表とする関係者5名と自動車業界におけるカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みについて懇談した。中経連からは宮本常務理事事務局長、根本常務理事をはじめ4名が出席した。

[※]イタリア中部に位置し、交通アクセスの良さから自動車産業を中心とする製造業が盛んな地域。

[国際部 岡戸]



3月
22日
(金)

3月度定例記者会見



中経連は総合政策会議終了後、水野会長の定例記者会見を行い、

- 「2024年度事業計画^{※1}」
- 社会基盤委員会が取りまとめた報告書

「『日本中央回廊』の効果最大化に資する道路ネットワーク整備^{※2}」

を公表した。会見には、社会基盤委員長長の柘植副会長が同席した。

^{※1} 本誌2ページ参照

^{※2} 本誌6～9ページ参照

[総務・会員サービス部 横山]

中経連ホームページでは、掲載の記事について詳しく紹介しています。

<https://www.chukeiren.or.jp/newscat/report/>





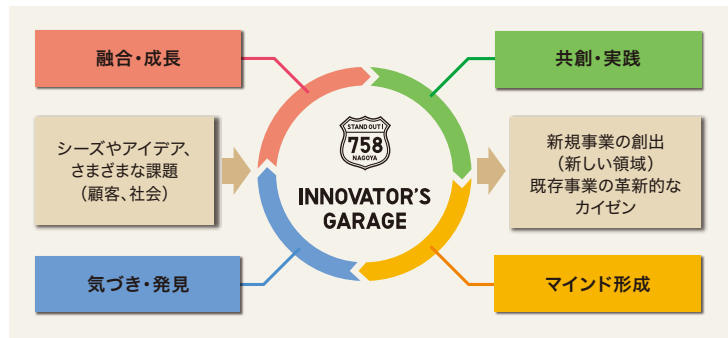
GARAGE Guide

ナゴヤ イノベーターズ ガレージ (以下、NIG) のスタッフが、スタートアップ・イノベーション創出に向けた活動や運営の裏側などをご案内します。今回は、2024年度プログラムの全体像をご紹介します。

「中部圏イノベーションエコシステム」とは

NIGでは、中部圏において、**共創・オープンイノベーション**を通じて新規事業や既存事業の革新的なカイゼンが持続的に創出される仕組みを「中部圏イノベーションエコシステム」と定義。

新規事業や新たな価値の創出に向けて、「マインド形成」「気づき・発見」「融合・成長」「共創・実践」による4つのステージで多様なプログラムを展開している。



2024年度プログラムの全体像

2024年度プログラムは、チャレンジャーが、各ステージで成長のステップを把握できるよう「事業会社向け」および「アントレプレナー（事業家・起業家）向け」を二本柱の育成事業に据え、それらに対応するメンタリングなどの各種支援で構成されている。

(1) 事業会社向け

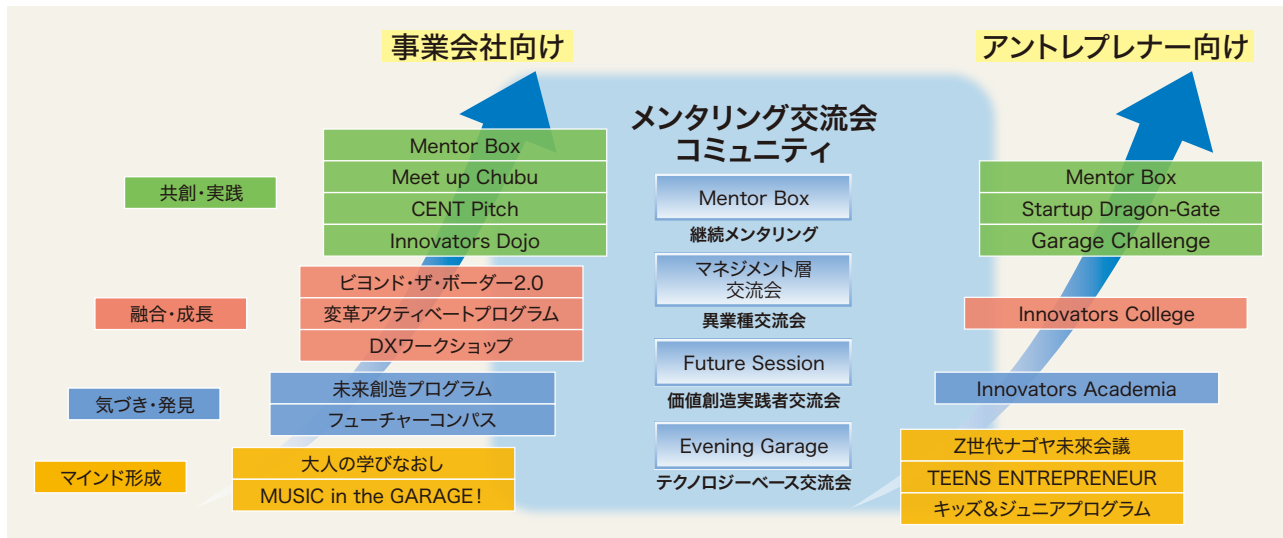
- 新規事業創出やカイゼンを目的に、個人参加が可能な「変革アクティベートプログラム (デザイン思考ワークショップ)」や「DXワークショップ」。
- チーム参加で会社の課題や新規事業の種を持ち込み、戦略ビジョンの策定から実践までを支援し、社会実装を目指す「ビヨンド・ザ・ボーダー2.0」。

- 社会実装に向けて伴走支援する新規プログラム「Innovators Dojo」などを展開。

(2) アントレプレナー向け

- 2.5日の短期間で起業を体験できる実践型プログラム「Startup Dragon-Gate」を追加するなど、内容を拡充。

NIGは、プログラムの提供を通じ、失敗を恐れずに、新たな価値を生み出そうとするチャレンジャーの増加を目指していく。また、チャレンジャー同士の交流も重視しており、名古屋市内にある他のイノベーション創出拠点を会場とした交流会も予定している。



2024年度のプログラム

プログラム
詳細



<事業会社向け>

目的	プログラム名	概要
共創・実践	Mentor Box	スタートアップの立ち上げや企業の課題解決を多彩な分野の専門家がサポートするメンタリングプログラム(2023年度までの呼称「IGES」)。
	Meet up Chubu	大学シーズと研究の出口となる連携企業パートナーを結び、共同研究や新事業展開につなげるオープンイノベーションプラットフォーム[共催:中部経済産業局]。
	CENT Pitch	中部圏に拠点を置く、または中部に進出したいスタートアップ企業向けに、起業後の仲間や資金集め、既存企業とのマッチングを促進するピッチイベント[共催:(株)カチノデ]。
	Innovators Dojo ★	企業の新規事業創出および実行に向けた伴走型支援プログラム。
融合・成長	ビヨンド・ザ・ボーダー2.0	企業変革・イノベーション創出に向けた戦略デザインを形成する人材育成プログラム。
	変革アクティベートプログラム	自社の課題を見つけ、解決を図る思考(デザイン思考など)・手法を学びながら、コミュニティの形成を図るプログラム。 ※マネジメント層向けと事務者層向けの二種を展開。
	DXワークショップ	企業内でDXを推進していくための知識や手法を学ぶワークショップ。
気づき・発見	未来創造プログラム	デジタルや環境、モビリティなどのテーマについて、セミナーやピッチ形式で未来を考えるイベント。
	フューチャーコンパス	世界で活躍する専門家による講演会。現在世界で起きている新しい時代の可能性を受け止め、イノベーションにつながる発想を呼び起こすプログラム。
マインド形成	大人の学びなおし	リベラル・アーツ講座。若者から年配者まで誰でも参加できる“学びなおし”のプログラム。
	MUSIC in the GARAGE!	アートとテクノロジーの融合による知的創造のきっかけをつくる音楽会。

<アントレプレナー向け>

目的	プログラム名	概要
共創・実践	Mentor Box	スタートアップの立ち上げや企業の課題解決を多彩な分野の専門家がサポートするメンタリングプログラム(2023年度までの呼称「IGES」)。
	Startup Dragon-Gate ★	2.5日の短期間でアイデアをビジネスモデルに具体化し、起業につなげる実践型プログラム。
	Garage Challenge	参加者が社会などに対する「問い」を持ち寄り、賛同者を巻き込んで、プロジェクトを実践するための第一歩を支援するプログラム。
融合・成長	Innovators College ★	イノベティブな思考や発想法を会得し、新規事業の種を創出するためのワークショップ。
気づき・発見	Innovators Academia ★	社内起業家・アントレプレナー創出・育成を目指し、新規事業や起業に関連する世界の潮流、推進プロセス、ツールの活用などを学ぶ放課後勉強会。
マインド形成	Z世代ナゴヤ未来会議	デジタルネイティブであるZ世代(16~27歳)が抱える不安や期待を共有し、理解を深め、中部地域の未来に向けて活動するミーティングプログラム。
	TEENS ENTREPRENEUR ★	世界の潮流を学び、学生時代から「起業」を含めた新しい生き方を考える高校生向けプログラム。
	キッズ&ジュニアプログラム	ゲームなどを通じて、経済やデジタル技術を学ぶ小中学生向け体験講座。

★印:2024年度から開始の新規プログラム

**Report
1**

2024.3.15 Fri.

環境とイノベーションの未来パネルディスカッション



詳細はこちら

NIGは、Aichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortium※主催の「環境とイノベーションの未来パネルディスカッション」を開催した。

第一部では、京都大学大学院経済学研究科教授の諸富徹氏が、「産業的課題としての気候変動政策」と題して講演を行った。第二部のパネルディスカッションでは、カーボンニュートラルに関する世界の潮流や脱炭素に向けた国内外の対応について、各界のトップランナー4名が登壇し、議論するとともに、参加者に対し環境意識の向上と持続可能な社会に向けた行動を呼びかけた。



※中経連、名古屋大学、愛知県、名古屋市などで組成する共同事業体。

**Report
2**

2024.3.23 Sat.・24 Sun.

**2023年度キッズ&ジュニアプログラム
「STEAM FAMILY SPRING FES. 2024」**



詳細はこちら

NIGは、小学生のSTEAM教育※1の一環として、体験・交流型イベント「STEAM FAMILY SPRING FES. 2024」をナディアパーク(名古屋市中区栄)で開催し、二日間で364名が訪れた。各フロア会場では、中部圏の高校生やものづくり企業のエンジニアによる



「eDIY® 緑日」の様子



高校生とエンジニアによるプロダクト展示

プロダクトが展示されたほか、次世代モビリティの試乗体験などが実施された。特に、(株)スクーミー主催の「eDIY※2® 緑日」では、約50名の高校生有志がIoT技術を駆使して、屋台の運営や提灯を作るワークショップなどを行い、会場を盛り上げた。また、会場外には、全長約4m、全高約2mのドイツ製戦車「Wiesel 2」の動く実物大模型が展示され、道行く人の注目を集めた。

※1 科学・技術・工学・芸術・数学 (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics) の5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念。
 ※2 electrical Do it yourselfの略で、生活の利便性を高めるために、テクノロジーを駆使して新しい価値を生み出していくこと。



ドイツ製戦車「Wiesel 2」の実物大模型

GARAGE Schedule 2024年5月～6月プログラム・イベント予定

NIGでは、共創を通じて新規事業の創出や既存事業の変革が持続的に起こることを目指す仕組み「中部圏イノベーションエコシステム」を循環させるため、さまざまなプログラムやイベントを開催しています。

プログラム
イベント詳細
はこちら



5月8日(水)・6月5日(水) CENT Pitch(共催:(株)カチノデ)

中部に拠点を置く、または中部に進出したいシード～アーリー期のスタートアップ企業が登壇するピッチイベント。スタートアップが自社のビジョンやビジネスモデル、製品、サービスなどを企業や投資家に向けてプレゼンテーションし、参加した企業のニーズとマッチングすることでビジネスアイデアの進展を通じた中部圏のオープンイノベーションの促進と経済活性化を目指します。

5月9日(木)・23日(木) Meet up Chubu(共催:中部経済産業局)

中部圏発の産学連携プロジェクトが次々と生まれることを目指し、共同研究や新事業展開に向けた協業先を探索するイベント参加型のプラットフォーム。このプラットフォームで生まれた連携プロジェクトは、産学官からなる各種支援を通じて社会実装の加速を目指します。

5月10日(金) Innovators College

起業・新規事業を推進する際に必要となる、モノゴトに対するイノベティブな考え方や発想を養うワークショップ。第9回目となる今回は、「イノベーションの起こし方～現場からみた破壊的イノベーションの要諦～」をテーマに開催します。

6月24日(月) フューチャーコンパス

各界のプロフェッショナルによる講演からイノベーションにつながる発想を呼び起こすことを目的としたプログラム。社会や産業において、これまで人類が経験したことのないスピードでパラダイムシフトが進む中、今、世界で起きていることや新しい時代の可能性について理解を促し、イノベーションの創出と活発化を目指します。

6月29日(土) GARAGE CHALLENGE STAGE

「行動だけが未来を変える。あなたの問いから社会に新たな価値を」をスローガンに、社会に変革をもたらす実践者の輩出を目的としたプログラム「GARAGE CHALLENGE」の最終発表会。各チームから三か月間の取り組みをピッチした後、審査員からフィードバックと継続可否の判定、表彰を行います。



★会員募集中★



新規事業を創出・共創したい方、同じ意志を持った人とつながりたい方をお待ちしております!

ナゴヤ イノベーターズ ガレージは、(一社)中部経済連合会と名古屋市がタッグを組んで設立した会員制のイノベーションハブ施設です。5年先・10年先に向けて新規事業に取り組みたい方、同じ意志を持った人とつながりたい方、共創による新規事業創出を目指している方をお待ちしています!

TEL : 052(253)9758 / E-Mail : info@garage-nagoya.or.jp



ウェス ヴィ
株式会社WES-VI

当社は、2018年に名古屋市西区で設立したドローン事業を展開する企業です。関連会社であるCBC自動車学校が65年間蓄積してきたライセンス教育のノウハウを活かし、国土交通省認定のドローン管理団体(ドローンスクールに対する指導や修了生へライセンス発行をする団体)として、現在は主に5つの活動を行っております。

1. ドローンパイロット(操縦士)の育成

ドローンパイロットの資格取得に必要な航空法に関する知識に加え、マナー教育、実際の現場経験に基づく操縦ノウハウを提供しています。本資格はデジタル社会の発展に伴って必須になると考えています。

2. プログラミングによるドローン飛行講習

小学校の土曜学習などでプログラミングによるドローン飛行の講習を行っています。子どもたちが「楽しく」学べるカリキュラムを通じて、教育への貢献を目指しています。

3. 災害関連活動

災害時でも活用しやすいドローンを提供すると

もに、災害協定を締結している名古屋市、北名古屋市、名古屋港管理組合の防災訓練に参加しています。

4. 米国製ドローンの販売

米国国防総省の認可を受けた信頼性の高いドローンを提供しています。同機には24時間に及ぶ有線飛行や専用ポートからの自動離発着、AI機能など、他社にはない特長を持ったシステムが搭載されており、導入から操作講習、メンテナンスまでサポートしています。

5. 映像制作

ドローンによる撮影から編集までの映像制作を請け負っています。名古屋市やミャンマー連邦共和国など、国内外でのPR映像の制作実績があります。

当社は、「感謝屋」(感謝・愛・徳)をグループの経営理念に掲げ、「子どもたちに夢と誇りを、社会に勇気と希望を与えられる存在となる」ことを使命としております。地域社会に必要とされる企業になるために、日々活動しています。



ドローンによる海上警備の様子



メッセージ

代表取締役社長
西村 昌績
にしむら まさのり

私の祖父である西村信夫が、(有)中京菓子玩具卸市場、(有)CBC自動車学校を創業し、現在は(医)朋寿会、(株)WES-VIなど、複数の会社を経営させていただいております。私がグループの代表に就任させていただいて、アサヒビール(株)名誉顧問の中條高德先生とユニー(株)元会長の西川俊男先生を相談役にお招きしました。お二人からは、多くの「学び」と「薫陶」を授かりました。その中で私が特に

大切にさせていただいている2つの言葉があります。

一つは、中條先生のお言葉「豊かさは全人類の目指すエネルギーである。しかし、豊かさを手に入れると目指すエネルギーが弱くなり、我慢する、耐える力が弱くなる」です。

もう一つは、西川先生のお言葉「人生を豊かにするための人生の三感王『感心・感動・感謝』、経営を支える柱になる経営の三感王『危機感・存在感・責任感』」です。

この2つの教えを大切に、入会させていただきまことに感謝を申し上げた上で、会員の皆様方とのご縁を深め、皆様から多くの「学び」や「気づき」を拝受しながら、挑戦と成長を続けていく所存でございます。どうぞご指導の程よろしくお願い申し上げます。

設立 2018年7月

事業内容 ドローンスクールの運営・各種ドローンビジネスの発掘と供給

所在地 〒452-0818 名古屋市西区山田町上小田井東古川3117 TEL 052(482)8815



草川工業株式会社

当社は、ガス・電気・石炭などエネルギーに関わる機器の提案施工を手掛ける住宅設備専門店として、給湯器や床暖房、リフォームをはじめとする住宅設備機器の提案・施工を手掛けています。社内に施工部門を擁していることもあり、お客様の幅広いニーズに柔軟に対応できることが大きな強みです。何よりも、「お客様との縁」を大切にすることを心がけて事業に取り組んでおります。お客様のニーズに応え、迅速、

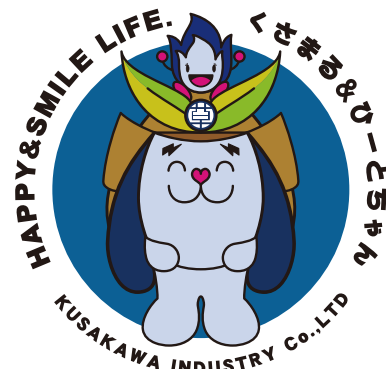


真摯に対応してきたことが、信頼と新規顧客の獲得につながってきたのではないかと考えています。

新規事業では、生活環境を改善するSDGsに配慮した衛生対策商品「アンチバクテリア&デオドラント『デオファクターカー

サ』(ミネラル酸素触媒)」の施工代理店として多様な活動を行っています。

当社は、モンゴルにおけるLPガスの普及事業に参画するなど、海外でのエネルギー転換にも貢献しています。国境を越えて、経営理念である「親しまれ、信頼され、喜ばれる会社」を目指し、住みよいライフスタイルを確実に提案してまいります。



【マスコットキャラクターの紹介】

メインキャラクターの「草丸くん」と炎の妖精「ヒートちゃん」。草丸くんのまゆ毛は“エネルギー”、鼻のハートは“温かさ”と真心、かぶとは“力強さ”をイメージしており、二人でガスの安全や未来を見守っています。

メッセージ



代表取締役

草川 晃吉

くさかわ こうきち

この度、中経連に入会させていただきました。
中部圏での素晴らしいご縁をいただけたこと、心よりお礼申し上げます。
当社は、今年で創業114年目を迎えます。「親しまれ、

信頼され、喜ばれる会社」を目指し、住みよいライフスタイルを確実に提案することを使命に、思いやりを持った行動で社会に貢献したいと考えております。

また、伝統を大切にしながら時代のニーズに応える多彩な事業展開の実現と中部圏における地域貢献に努めたいと思っております。

これからのご指導、ご交流のほどをよろしくお願い申し上げます。

創業 1910年4月 (設立 1981年1月)

事業内容 ガス事業、イベント事業、リフォーム事業、環境事業

所在地 〒462-0024 名古屋市北区鳩岡二丁目1-4 TEL 052(915)8761



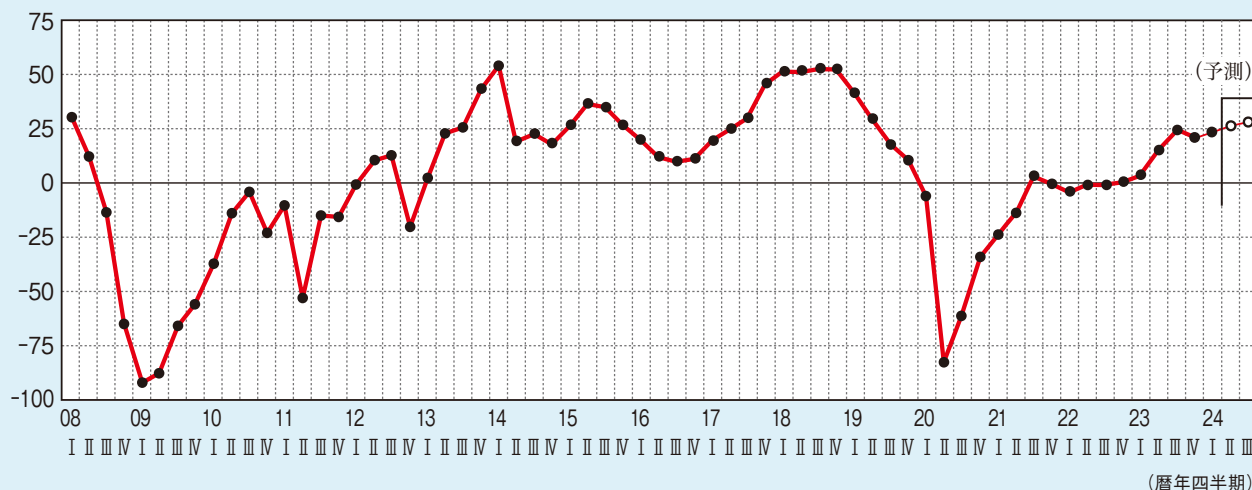
中部圏の景況判断

[アンケート調査の概要] ◎調査時期：2024年1月24日～2月20日

◎対象：法人会員644社

◎回答：200社 (回答率31.1%)

[現況判断・見通し：「良い」-「悪い」]



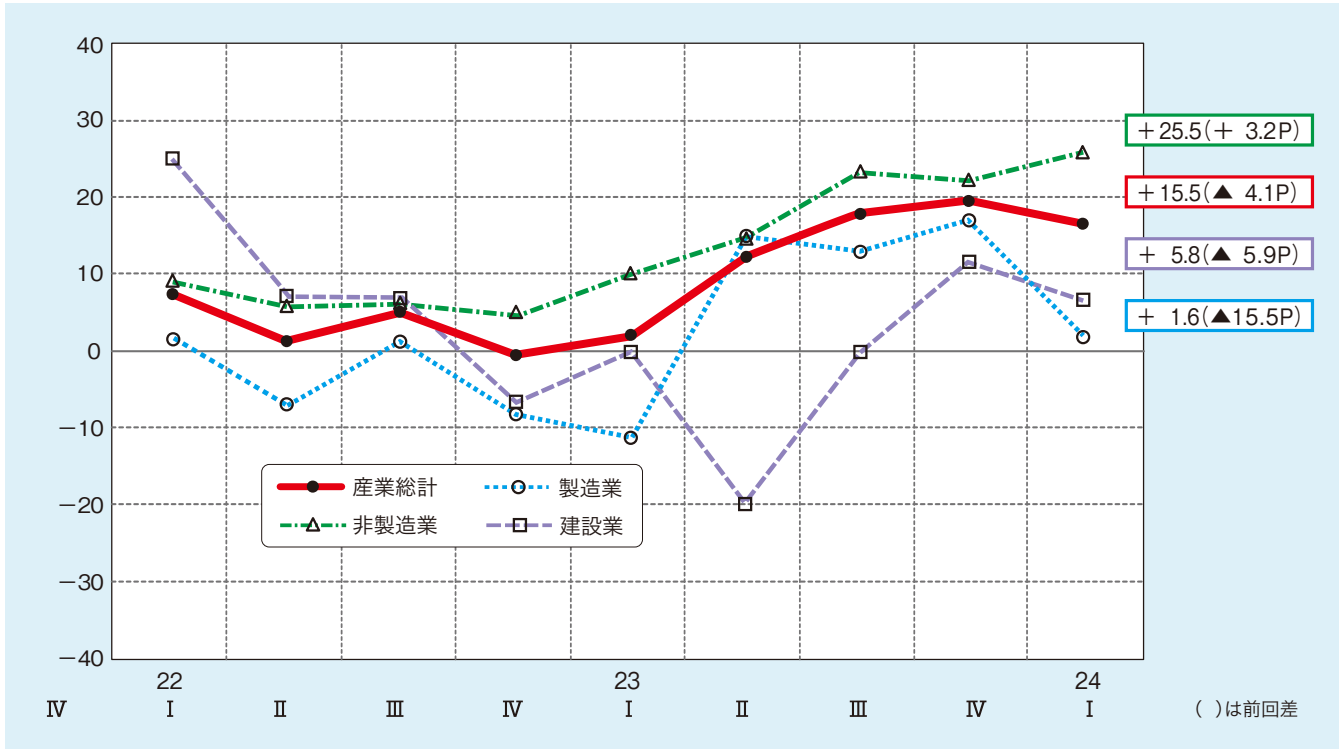
【1.今回のポイント】

- 1～3月期の中部圏の景況判断(「良い」-「悪い」社数構成比)は、わずかに改善し、+21.5(前期比+0.6ポイント)となった。水準は前回予測を下回ったが、D. I. は引き続き20台を維持した。業種別では、製造業・建設業で悪化し、非製造業は改善した。水準は各産業とも前回予測を下回る結果となった。
- 景況判断の先行きについては、製造業・非製造業は改善、建設業は来期は横ばいで推移し、再来期は改善する見通し。米中経済の先行き、海外の政情不安、資源原材料の価格変動を懸念する企業の割合が多いが、前回から減少する一方、個人消費の回復、所得の増加、米中景気の回復などへの期待が高まっている。
- 業績判断(「良い」-「悪い」社数構成比)は産業総計で5期ぶりに悪化した。業種別では、製造業は大幅に悪化、建設業は3期ぶりに悪化した一方、非製造業はやや改善した。
- 設備投資計画判断(「増し」-「縮小・繰り延べ」社数構成比)は産業総計で横ばいとなった。
- 機械設備水準判断(「不足」-「過剰」社数構成比)は3期ぶりに悪化した。
- 雇用判断(「不足」-「過剰」社数構成比)は7期ぶりに低下したものの、引き続き高い値となった。
- 仕入価格判断・販売価格判断(ともに「上昇」-「下落」社数構成比)は、産業総計で仕入れ価格は4期連続で低下、販売価格は2期連続で上昇した。
- 為替相場については、「業績予想の前提レート」(142.3円)と「妥当な水準」(129.6円)がともに円安方向に変化したが、妥当な水準の上昇幅が大きく、ギャップは縮小した。
- 経営上の課題としては、「人手不足」と回答した企業が引き続き最も多い。人手不足の対応策としては「採用(中途を含む)」と回答した企業が産業総計・各業種で最も多く、次いで、「業務の効率化・平準化」であった。「来年度の賃上げ」、「賃上げ以外の処遇改善」も4割程度存在している。
- 能登半島地震の影響については、ほとんどないと見込まれるが、「影響が見込まれる」と回答した企業の中で、特に被害が大きかったのは産業総計では、「業務上関連のある他社の拠点」が最も多かった。
- 自動車会社の認証不正問題の影響については、産業総計では「ほとんど影響はないものと見込まれる」が最も多いが、5割弱にとどまり、「ある程度の影響が見込まれる」が4割弱を占めた。
- 2024年春闘の状況については、産業総計、各業種ともに「現時点では不明」が5割程度と最も多いが、正社員の賃上げ率(ベースアップを含む)は「前年の賃上げ率以上」が4割程度を占めるのに対して、「前年の賃上げ率未満(賃上げなしを含む)」は1割前後にすぎない。非正規社員の賃上げ率(同上)は「前年の賃上げ率以上」が3割程度にとどまり、「前年の賃上げ率未満(同上)」は建設業(1割以下)を除いて2割前後を占める。なお、企業規模別の違いは正社員ではさほど目立たないが、非正規社員では中堅・中小企業で「賃上げはない見込み」の割合が大企業より多く、違いがみられる。

【2.主な調査結果】

(1)業績判断D.I.

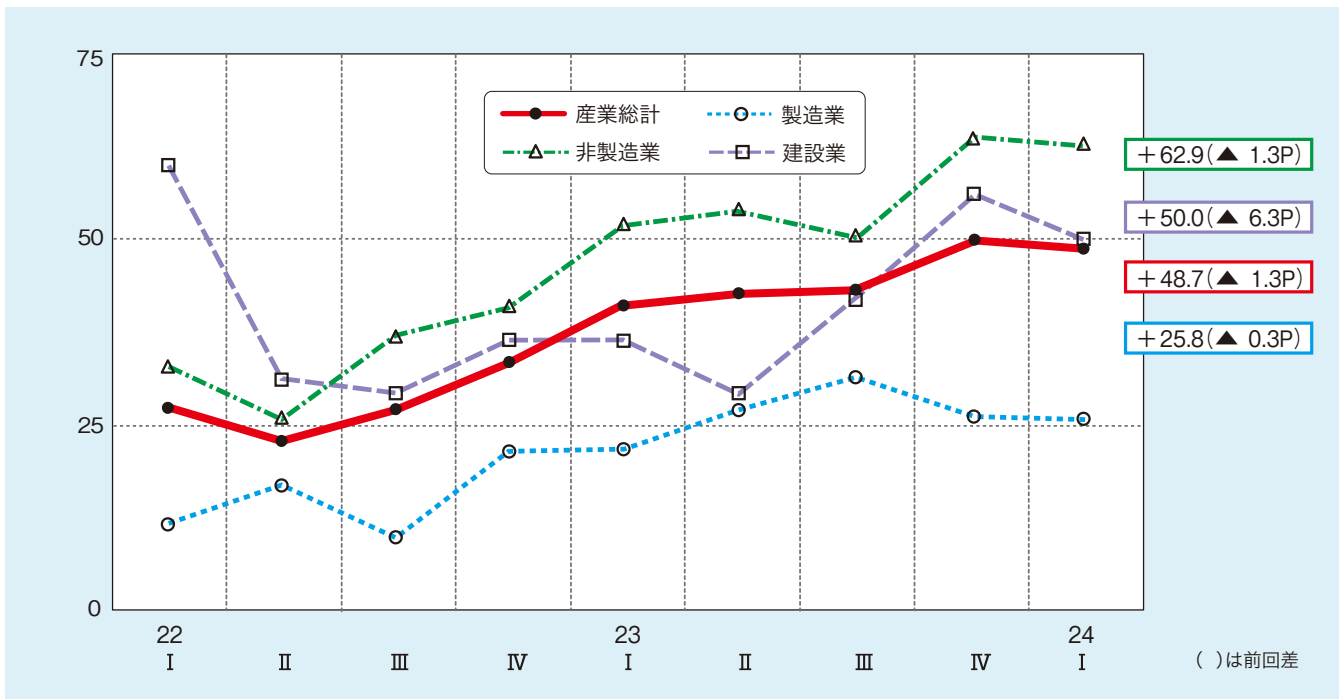
〔現況判断：「良い」-「悪い」〕



- 業績判断は、産業総計で5期ぶりに悪化した。
- 業種別では、製造業は大幅に悪化、建設業は3期ぶりに悪化した一方、非製造業はやや改善した。

(2)雇用判断D.I.

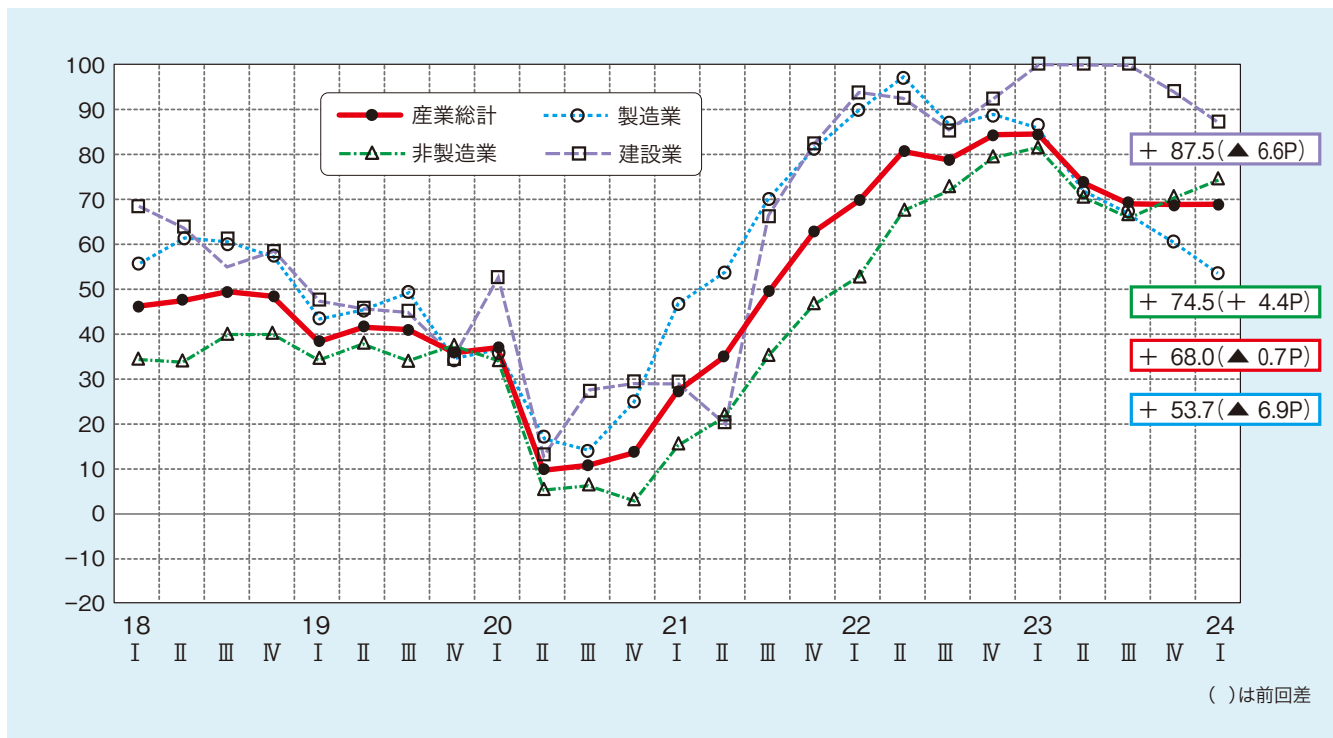
〔現況判断：「不足」-「過剰」〕



- 人手不足感は産業総計で7期ぶりに低下したものの、引き続き高い値となった。
- 業種別では、全ての産業で低下したが、引き続き非製造業での人手不足感が強い。

(3)仕入価格判断D.I.

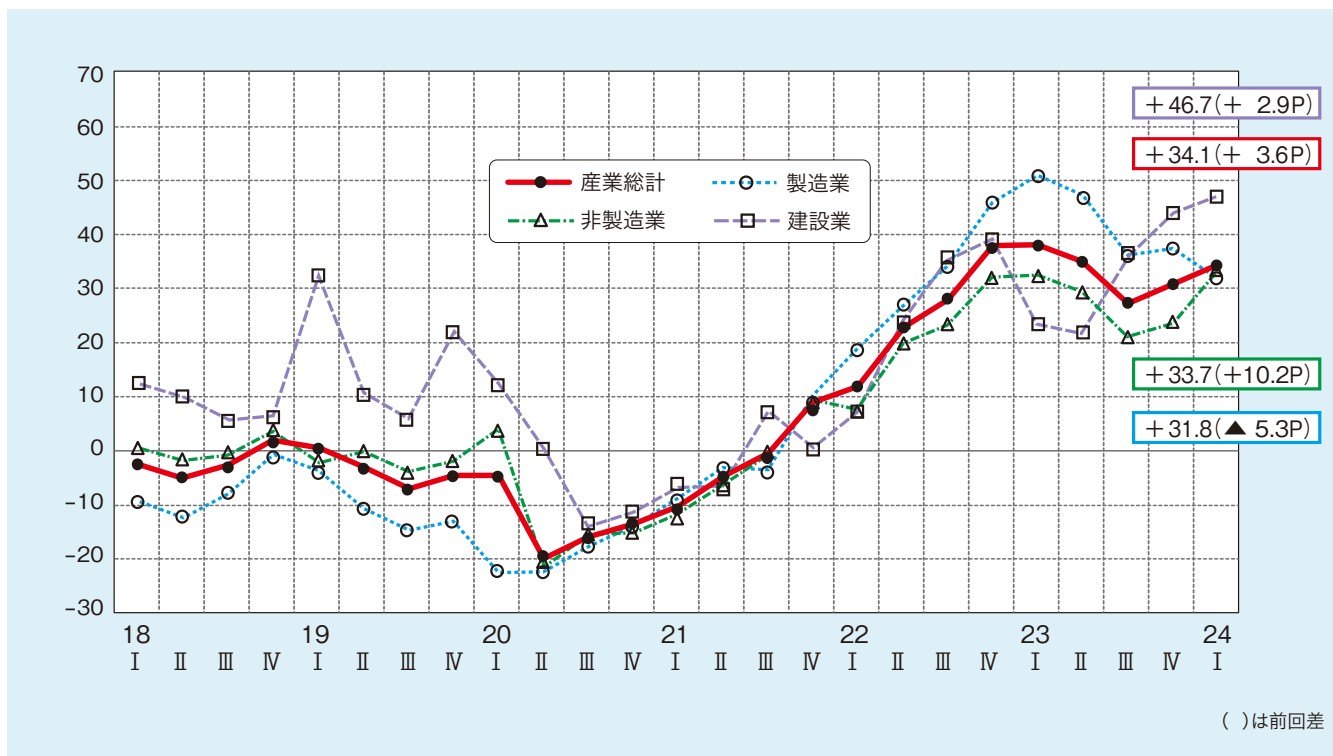
[現況判断:「上昇」-「下落」]



- 仕入価格判断は、産業総計では4期連続で低下した。業種別では、製造業・建設業が低下した。いずれも主因は「上昇」と回答した企業の割合が低下したことによるもの。非製造業のみ上昇した。

(4)販売価格判断D.I.

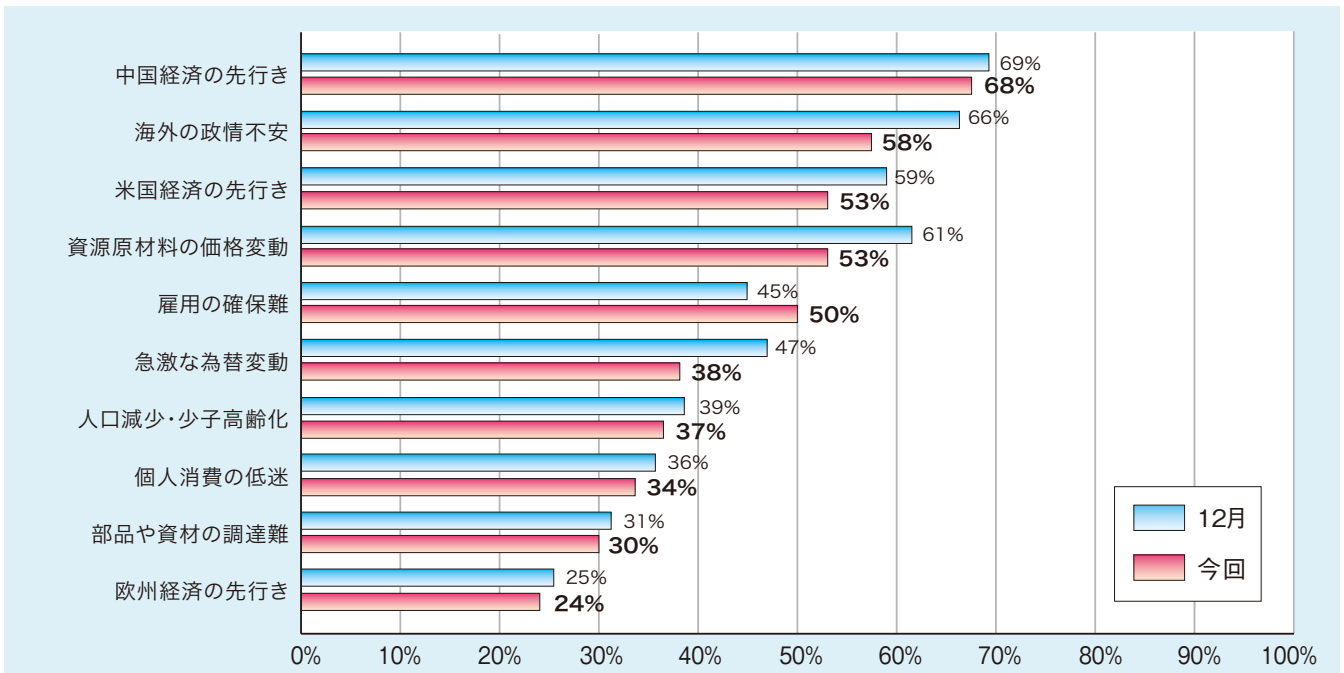
[現況判断:「上昇」-「下落」]



- 販売価格判断は、産業総計では2期連続で上昇した。業種別では製造業が低下し、非製造業・建設業が上昇した。とりわけ非製造業の上昇が大きく、2期連続の改善となった。

(5) 景気先行きの懸念材料(上位10項目)

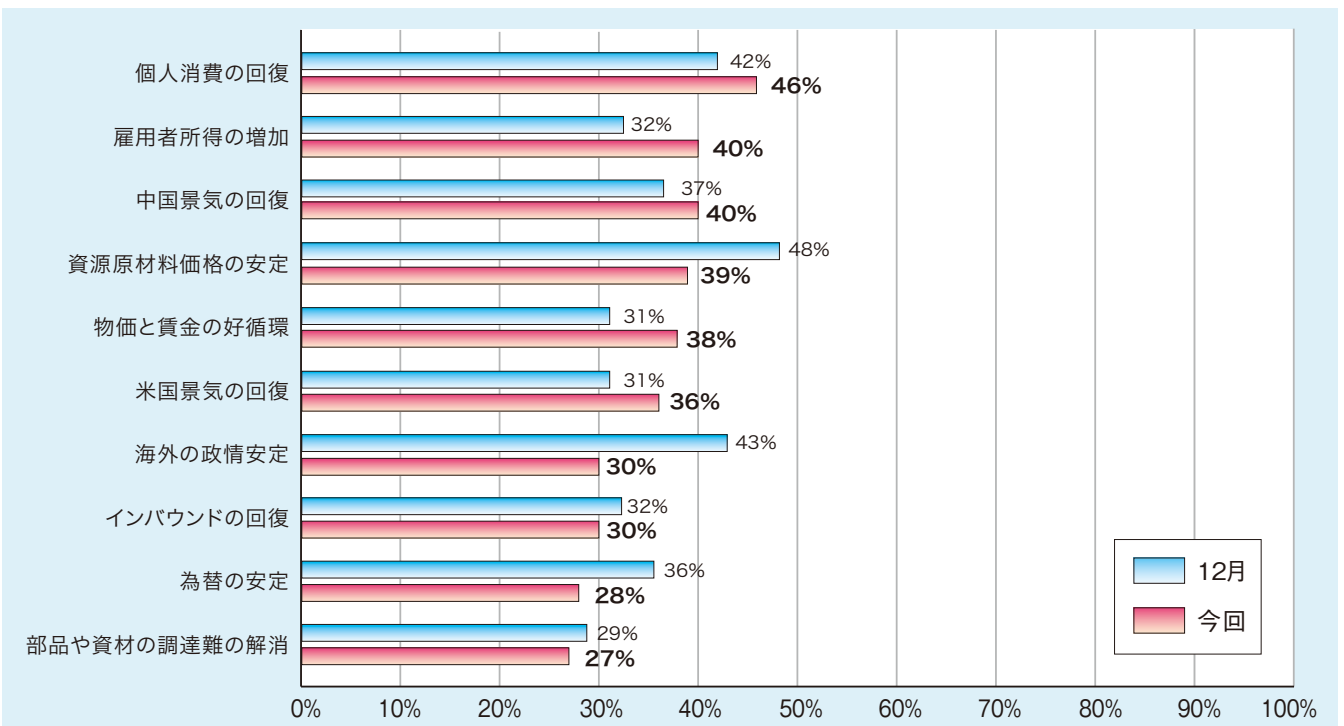
(複数回答)



- 「中国経済の先行き」は前回からわずかに減少したが、引き続き約7割と最も多い。
- 「雇用の確保難」を除いて上位9項目はすべて前回から減少した。
- 「海外の政情不安」は前回から減少し、約6割となった。次いで、「米国経済の先行き」「資源原材料の価格変動」が、引き続き上位を占めた。
- 今回から新たに追加した「企業のガバナンスの欠如」(17%)と「能登半島地震の復旧・復興の遅れ」(16%)はランク外。

(6) 景気先行きの期待材料(上位10項目)

(複数回答)



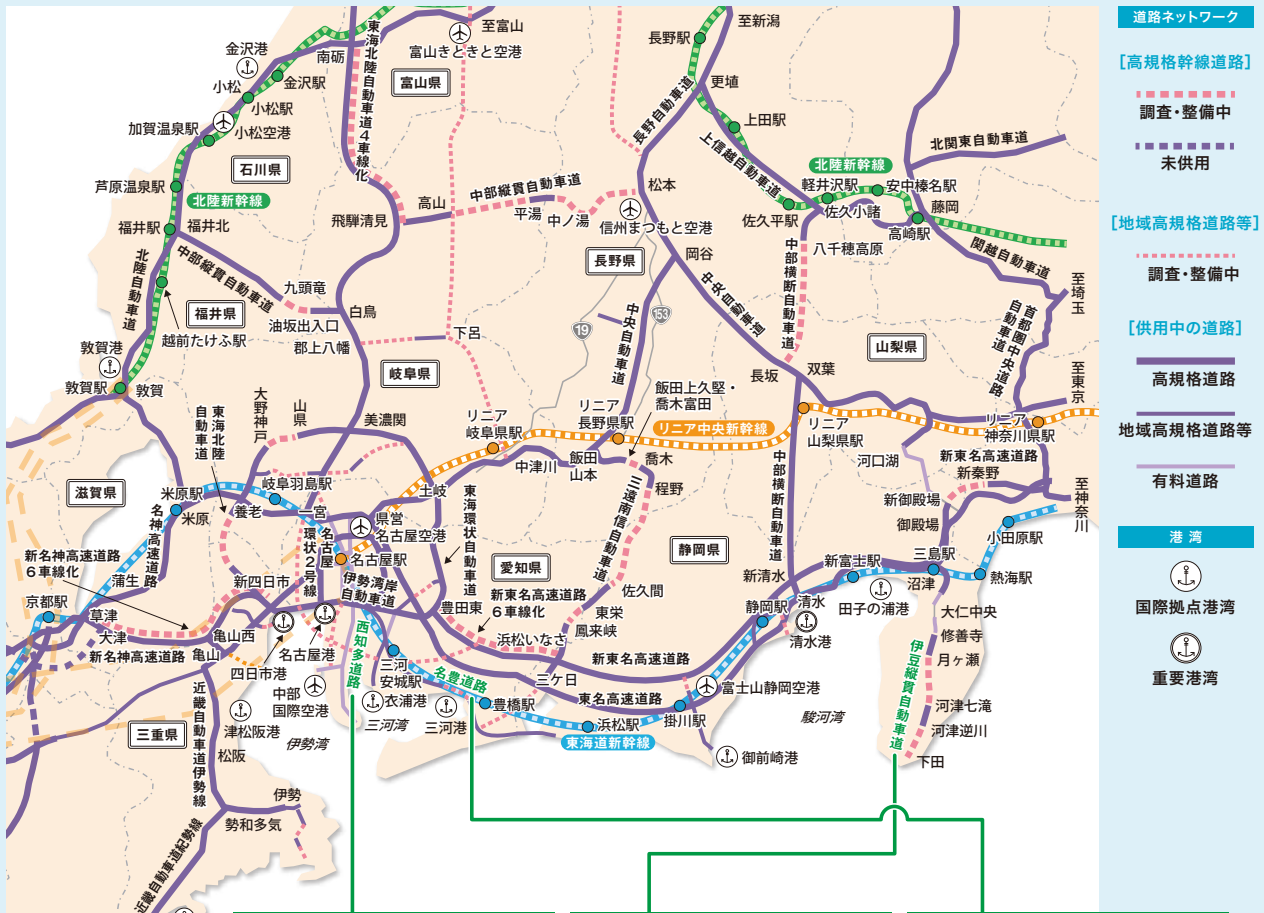
- 「個人消費の回復」が増加し、最も多い。次いで「雇用者所得の増加」「中国景気の回復」が4割となり、上位3項目となった。
- 前回トップの「資源原材料価格の安定」、前回2位の「海外の政情安定」は減少した。
- 「物価と賃金の好循環」「米国景気の回復」が増加した。

お問い合わせ先: 調査部

最近の要望活動

2023年度末の道路ネットワーク

中経連では、中部圏のヒトやモノの交流増進による地域活性化のほか、交通網の多重化による大規模災害への備えや交通渋滞の緩和などを旨とし、道路ネットワークの早期整備に向けた国などへの要望活動を展開しています。



2/7(水)
西知多道路の
早期全線開通を要望

2/8(木)
伊豆縦貫自動車道の
早期整備を要望

2/13(火)
名豊道路の早期整備を要望

2/7(水) 西知多道路の早期全線開通を要望

要望先	吉岡国土交通省技監をはじめとする国土交通省幹部
要望者	中経連、伊藤衆議院議員、愛知県(林副知事)、知多市(宮島市長)、常滑市(伊藤市長)、東海市(稲吉副市長)、名古屋市(山下住宅都市局まちづくり調整監)、名古屋港管理組合(鎌田専任副管理者)、名古屋商工会議所(田中常務理事・事務局長)、中部国際空港(株)(櫻井副社長)

2/8(木) 伊豆縦貫自動車道の早期整備を要望

要望先	進藤財務大臣政務官、石橋国土交通大臣政務官、吉岡技監をはじめとする国土交通省幹部
要望者	中経連、勝俣衆議院議員、牧野参議院議員、静岡県(森副知事)、下田市(松木市長)、伊豆市(伊郷副市長)、伊豆の国市(磯崎副市長)、沼津市(碓谷理事)、松崎町(深澤町長)、東伊豆町(岩井町長)、南伊豆町(岡部町長)、西伊豆町(星野町長)、河津町(木村副町長)、下田商工会議所(田中会頭)

2/13(火) 名豊道路の早期整備を要望

要望先	吉岡国土交通省技監をはじめとする国土交通省幹部
要望者	中経連、根本衆議院議員、今枝衆議院議員、愛知県(江口副知事)、豊橋市(浅井市長)、蒲郡市(鈴木市長)、豊川市(田中副市長)、三河港明海地区産業基地運営自治会、トヨタ自動車(株)

会員入会のお知らせ

3月22日(金)開催の総合政策会議において承認された新入会員をご紹介します。

【法人会員】

■ 株式会社シーエナジー

[登録者]代表取締役社長 中川 治

[所在地]名古屋市東区東桜一丁目13-3 NHK名古屋放送センタービル14階 [TEL] 052(950)3970

発行日 2024年5月1日

発行所 一般社団法人中部経済連合会

〒461-0008

名古屋市東区武平町5丁目1番地

名古屋栄ビルディング10階

TEL052(962)8091 FAX052(962)8090

編集発行人 一般社団法人中部経済連合会 宮本 文武

制作 株式会社たきコーポレーション

印刷 西川コミュニケーションズ株式会社

○本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

E-mail kikanshi@chukeiren.or.jp

○文責は事務局にあります。

○落丁本・乱丁本はご面倒ですが中経連機関誌担当
までお知らせください。お取り替えいたします。

○本誌記事・画像の無断転載・複製を禁じます。

「中経連」次号は2024年7月1日発行予定です。

本誌は再生紙を使用しております。



一般社団法人

中部経済連合会

中経連

<https://www.chukeiren.or.jp>

2024.5・6 Vol.371

5 May

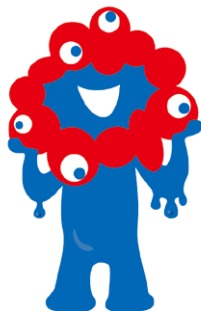
- 15 (水) 中部の魅力を語る なでしこの会 イベント
“自分らしく働く”環境づくりを目指して ～女性リーダーの視点から～
[ナゴヤ イノベーターズ ガレージおよびオンライン]
- 20 (月) 5月度正・副会長会 [名古屋栄ビル]
- 20 (月) 5月度総合政策会議および第50回理事会 [名古屋栄ビル]

6 June

- 11 (火) 第1回税制委員会 [名古屋栄ビル]
- 14 (金) 外国人留学生との交流会 [ナゴヤ イノベーターズ ガレージ]
- 19 (水) 第13回定時総会 [名古屋観光ホテル]

7 July

- 9 (火) 第2回カーボンニュートラル共創シンポジウム [名古屋大学]
- 10 (水) 三重地域会員懇談会・交流会 [ホテル津センターパレス]
- 26 (金) 7月度正・副会長会 [名古屋栄ビル]
- 26 (金) 7月度総合政策会議 [名古屋栄ビル]
- 30 (火) 岐阜地域会員懇談会・交流会 [岐阜グランドホテル]



2025年大阪・関西万博 (EXPO 2025)

2025年4月13日(日)～10月13日(月)開催

公式キャラクター「ミyakumyakku」プロフィール

出生地 関西のどこかにある小さな湧水地。
性格 人懐っこいが、おっちょこちょいでよくボカをする。
特技 色々な形に姿を変えられること、雨上がりに虹を見つけること。
好きなこと あらゆる生き物や物事と触れ合うこと。

<https://www.expo2025.or.jp/> ©Expo 2025

